エクジス

マニュアル番号 ME-1684
改-5

新日軽 スクリーンゲート Eシリーズ電動タイプ 施工説明書

この度は、新日軽商品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この組立施工マニュアルをよくお読みの上、作業を行なってください。

◎組立・施工の前に

- 本マニュアルに示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全を確保する上で重要な内容です。施工にあたっては必ずお守りください。
- 施工は専門業者が行なってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
- このマニュアルは施工後必ず施主様へお渡しください。

○注意(設置場所・設置位置について)

- 開閉操作の際には、手足や衣服などをはさまれないよう注意してください。はさまれると怪我をする恐れがあります。
- 門扉を揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。
- 開閉操作の際は、周囲に人や物がないことを必ず確認してください。又、開閉操作はゆっくり行ってください。扉に人がはさまれ、事故の発生する恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
- 基礎は弊社指定寸法以上にしてください。
- 地下埋設物（給排水管等）に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。
- 電動タイプは、扉開閉中に強風(設置状況や風向きによっては少しの風でも)による抵抗を受けると安全装置が働き、停止することがあります。この安全装置は指つめや挟まれ防止の為、開閉時の抵抗を検知するものです。停止した場合には再び操作ボタンを押すことで作動復帰します。

○施工時の注意事項

- モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。また、モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物、珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
- アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。
- 埋め込み柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液はアルカリ性で、シミやムラ等の外観不良や腐食の原因になりますので工事中に商品に付着しないようにご注意ください。
- 養生期間は十分(4日～1週間)にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
- 改造・変更をしないでください。

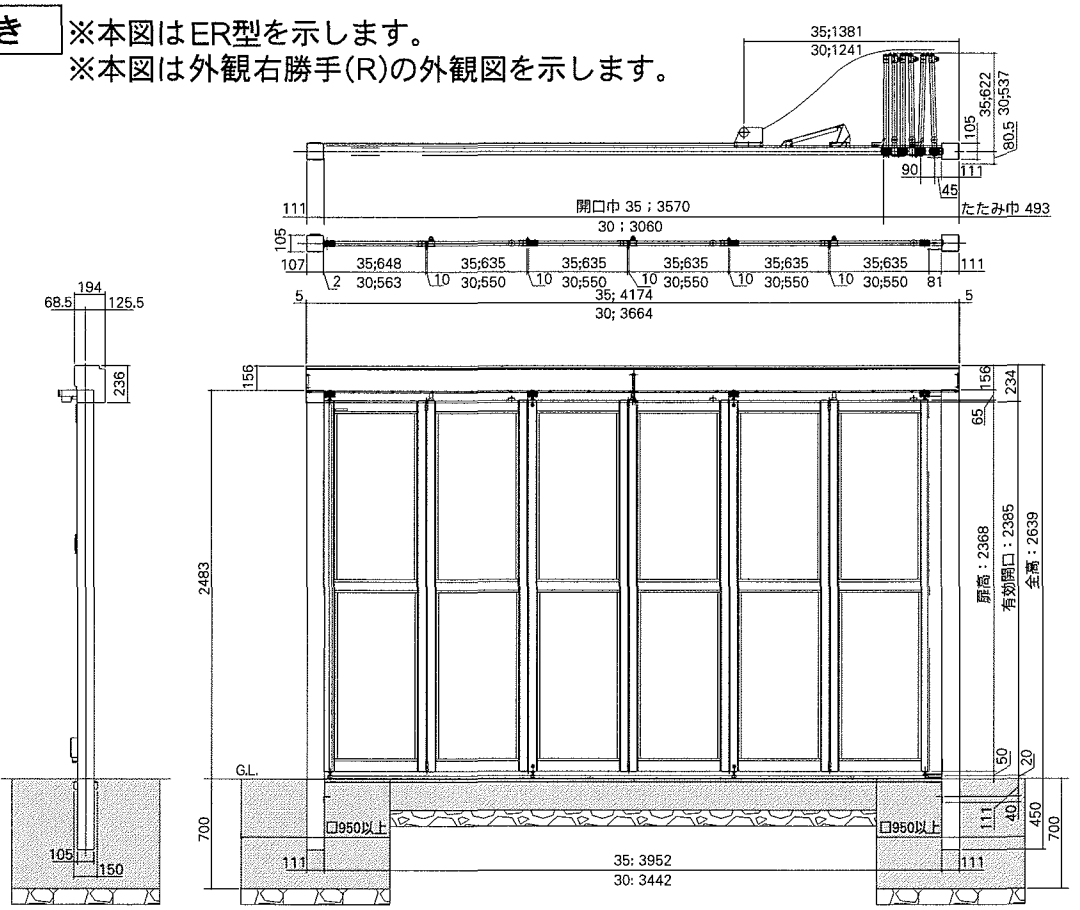
― 目 次 ―

組立・施工の前に ・・・・・ 1
注意(設置場所・設置位置について)・・・・・ 1
施工時の注意事項 ・・・・・ 1
納まり図 ・・・・・ 2
梱包明細 ・・・・・ 3～5
施工手順
1 はじめに ・・・・・ 6
2 取付けの注意 ・・・・・ 7
3 電源用CD管の埋設 ・・・・・ 8
4 ガイドレールの柱への取付け ・・・・・ 9～10
5 門柱・電動上枠レール・下部レールの組立・・ 11～12
6 上枠用ハーネスとスイッチ用・電源用ハーネスの接続・・ 13
7 扉の吊り込み ・・・・・ 14～15
8 吊り元ブラケットの取付け ・・・・・ 16
9 扉の連結 ・・・・・ 16
10 吊り元ガイドの取付け ・・・・・ 17
11 扉本体とベルトの連結 ・・・・・ 18～19
12 吊り戸車の高さ調整 ・・・・・ 20
13 ガイドローラーの調整 ・・・・・ 20
14 電源の接続 ・・・・・ 21
15 扉の手動での作動確認 ・・・・・ 22
16 初期動作 ・・・・・ 23
17 制御器ユニットの調整ボリュームスイッチの説明・・ 23
18 動作確認 ・・・・・ 24
19 扉が動かないとき ・・・・・ 25
20 結線図 ・・・・・ 26～27
21 仕様 ・・・・・ 28
22 おわりに ・・・・・ 28

納まり図

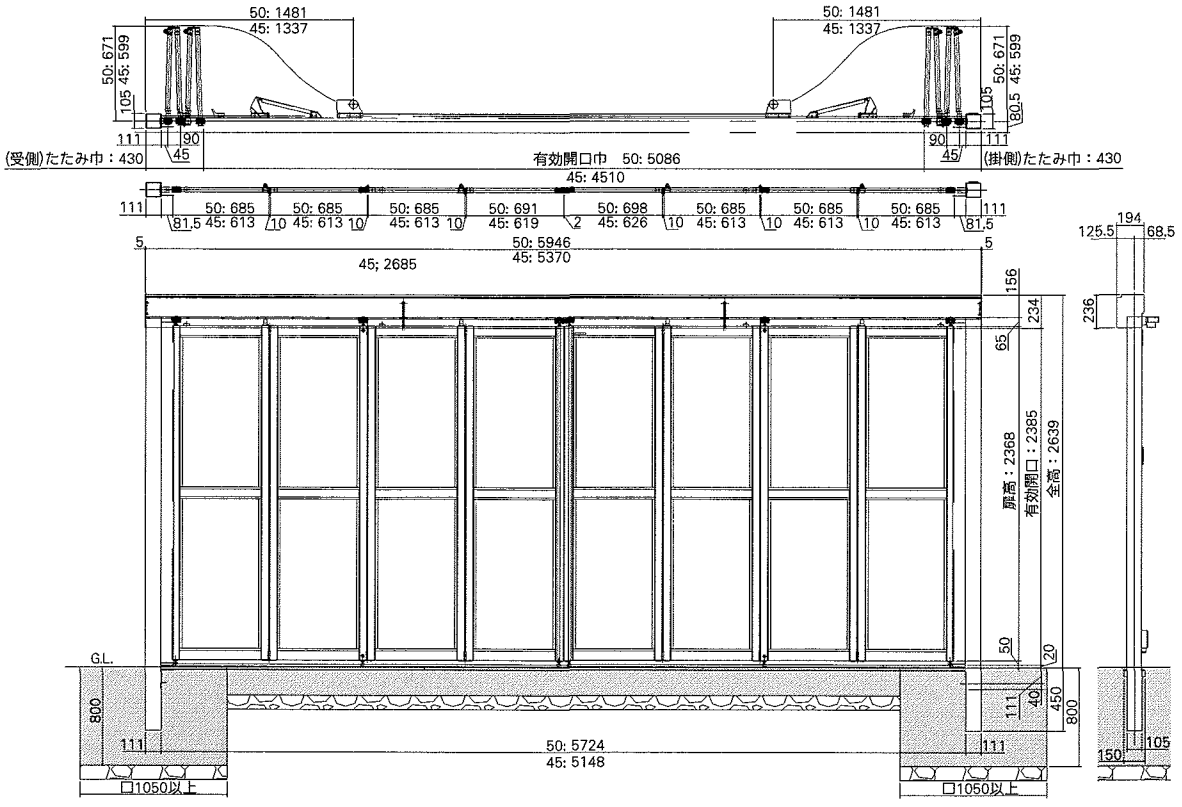
片開き

※本図はER型を示します。
※本図は外観右勝手(R)の外観図を示します。



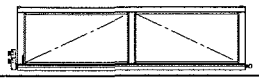
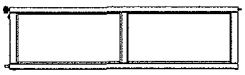
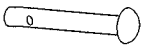
両開き

※本図はER型を示します。
※本図は外観右勝手(R)の外観図を示します。

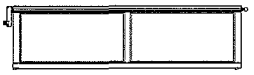
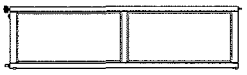
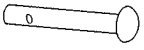


梱包明細

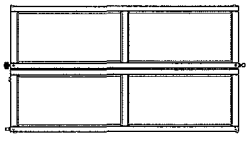
■ 施錠・掛け・吊り元扉セット(片開き、両開き)

部品名		略図				数量
掛け扉			片開き	W30:563 W35:648	H24:2368	1枚
			両開き	W45:626 W50:698		
吊り元扉			片開き	W30:550 W35:635	H24:2368	1枚
			両開き	W45:613 W50:685		
ヒンジピンセット	丸皿小ネジ		M4×12			2本
	ヒンジピン					2本
	平座金		M10　小型丸			2枚

■ 受け・吊り元扉セット(両開き)

部品名		略図				数量
受け扉			両開き	W45:625 W50:697	H24:2368	1枚
吊り元扉			両開き	W45:613 W50:685	H24:2368	1枚
ヒンジピンセット	丸皿小ネジ		M4×12			2本
	ヒンジピン					2本
	平座金		M10　小型丸			2枚

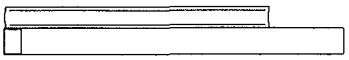
■ 中間扉セット(片開き、両開き)

部品名		略図				数量
中間扉			W30:550 W35:635 W45:613 W50:685		H24:2368	1セット
ヒンジピンセット	丸皿小ネジ		M4×12			2本
	ヒンジピン					2本
	平座金		M10　小型丸			2枚

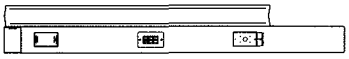
■ 柱セット(片開き) L/R有り

部品名	略　図		数　量
戸当り柱		(片開き)　H24:2933	L又はR 1セット

■ 柱セット(片開き) L/R有り

部品名	略　図		数　量
吊り元柱		(片開き)　H24:2933	L又はR 1セット
吊り元ブラケット			1個
六角穴付皿ボルト	M8×20		2本
六角レンチ			1本

■ 柱セット(両開き電源側) ※柱は、約30kg/本あります。取付けの際ご注意ください。

部品名	略　図		数　量
吊り元柱		(両開き)　H24:2933	L又はR 1セット
吊り元ブラケット			1個
六角穴付皿ボルト	M8×20		2本
六角レンチ			1本

■ 柱セット(両開き) ※柱は、約30kg/本あります。取付けの際ご注意ください。

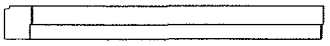
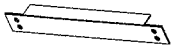
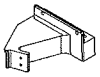
部品名	略　図		数　量
吊り元柱		(両開き)　H24:2933	L又はR 1セット
吊り元ブラケット			1個
六角穴付皿ボルト	M8×20		2本
六角レンチ			1本

■ ガイドレール

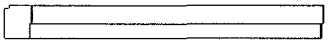
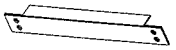
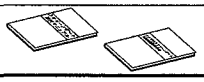
※○の中の数字は、数量を示します。

部品名	梱包内容
30用下部レール	下部レールA(1418.5)②、下部レールB(500)①、下部レールC(1720)② レール位置決め部品①、レール取付金具②、トラス小ネジ(M5×16)⑧ Φ5×16セルフドリリングビス㊻
35用下部レール	下部レールA(1673.5)②、下部レールB(500)①、下部レールC(1975)② レール位置決め部品①、レール取付金具②、トラス小ネジ(M5×16)⑧ Φ5×16セルフドリリングビス㊻
45用下部レール	下部レールA(1326)③、下部レールB(500)②、下部レールC_1(1712)② 下部レールC_2(1720)①、レール位置決め部品②、レール取付金具② トラス小ネジ(M5×16)⑧、Φ5×16セルフドリリングビス㊻
50用下部レール	下部レールA(1518)③、下部レールB(500)②、下部レールC_1(1872.5)② 下部レールC_2(1975)③、レール位置決め部品②、レール取付金具② トラス小ネジ(M5×16)⑧、Φ5×16セルフドリリングビス㊻
レール連結部品	レール連結裏板②、　クッション材①、Φ4×10トラスタッピンネジ④

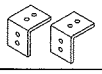
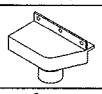
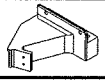
■ 上枠レールセット(片開き)

部品名	略　図		数　量
上枠レール		(片開き) W30:3674 W35:4189	1セット
リモコン			1個
第2ケリ出し板			1個
皿タッピンネジ		Φ5×50	2本
皿小ネジ		M5×16	4本
けり出しガイド			1本
組立施工マニュアル お施主様用手引き			各1刷
巾決めパイプ取付用 トラス小ネジ	部品箱入り	M5×16	4本
アンカー金具			2個
ガイドブラケット			1セット
第一ケリ出し板			1セット
吊り元ガイド			2個
座金組込み 六角ボルト		M8×20	8本
トラスタッピンネジ		Φ5×16	14本
トラス小ネジ		M6×20	4本

■ 上枠レールセット(両開き) ※上枠は、約100kg/本あります。取付けの際ご注意ください。

部品名	略　図		数　量
上枠レール		(両開き) W45:5386 W50:5962	1セット
リモコン			2個 (1個は別梱包です)
第2ケリ出し板			2個
皿タッピンネジ		Φ5×50	4本
皿小ネジ		M5×16	8本
けり出しガイド			2本
組立施工マニュアル お施主様用手引き			各1刷

■ 両開き用部品箱

部品名	略　図	数　量	部品名	略　図	数　量
巾決めパイプ取付用 トラス小ネジ	M5×16	4本	吊り元ガイド		R、L各2セット
アンカー金具		2個	座金組込み 六角ボルト	M8×20	8本
ガイドブラケット		R,L各1セット	トラスタッピンネジ	Φ5×16	28本
第一ケリ出し板		R,L各1セット	トラス小ネジ	M6×20	8本

施工手順

1 はじめに

1. 下記に示した以外の納まりの場合などは、強度、開閉動作、地盤等を考慮して施工してください。
2. 障害物等により、扉の開閉に支障の無い場所に設置してください。
3. 床面の仕上げは本体のたたみ巾も考慮に入れ、水平に仕上げるか7ページ納まり図をご参照し水勾配等を考慮してください。
4. 姿図を参考に基礎穴を掘り、所定の仕上がりになる様捨てコンを打ち、水平レベルを出してください。

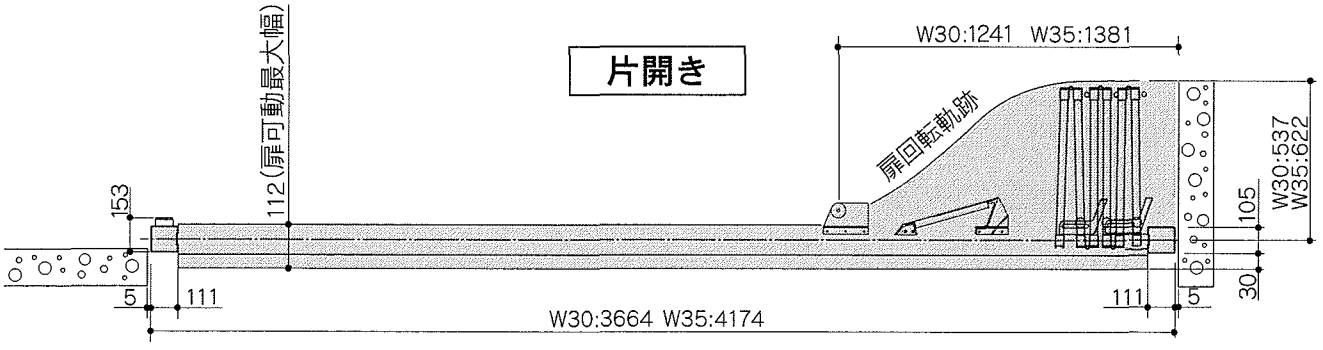
■ 基礎工事について

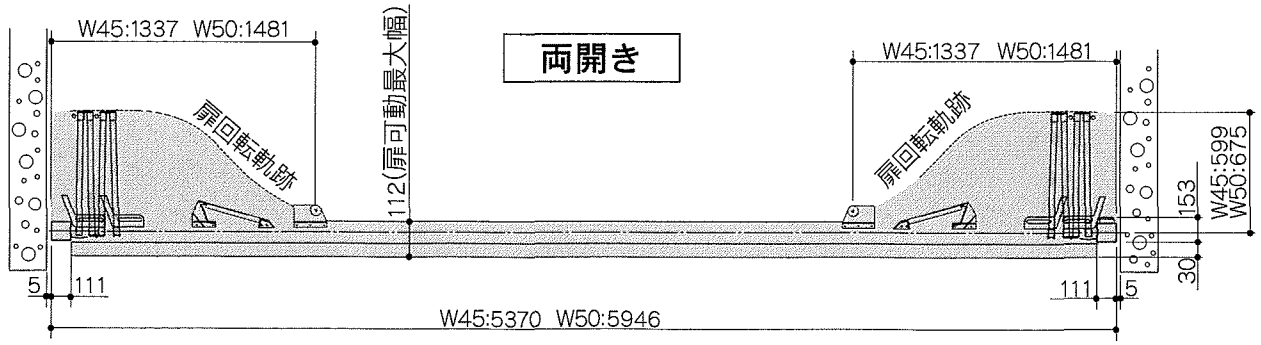
1. エクジススクリーンゲートは、風圧を受けますので全体の強度保持に十分注意してください。特に地盤が軟弱な場所、台風が頻繁に飛来する地区、特に風の強い場所などの施工現場では基礎を大きめに設けてください。
2. 柱基礎には必ず割栗石を敷き、十分につきかためてください。
3. 地下埋設物に注意してください。

■ 取付けについて

1. 上枠レール及び柱内部に水をかけないでください。内部の電子回路が破損します。
2. 下枠レールに石やゴミなどが詰まったまま動かさないでください。
3. 日常の電源の入切は別にスイッチを設けてください。(上枠レール内の電源スイッチは点検用です。)
4. 敷地内スイッチの表面の汚れは、中性洗剤を浸したスポンジや柔らかい布で拭いてください。
（シンナーやベンジンなどは絶対に使用しないでください。）

> **!** 注意：扉回転軌跡上の障害物又は、床面の仕上げにご注意ください。
> 上枠カバー、扉、等が、干渉して扉が開閉できなくなったりキズが付く可能性があります。



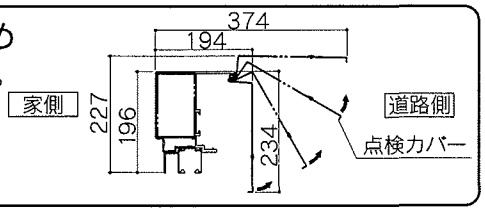


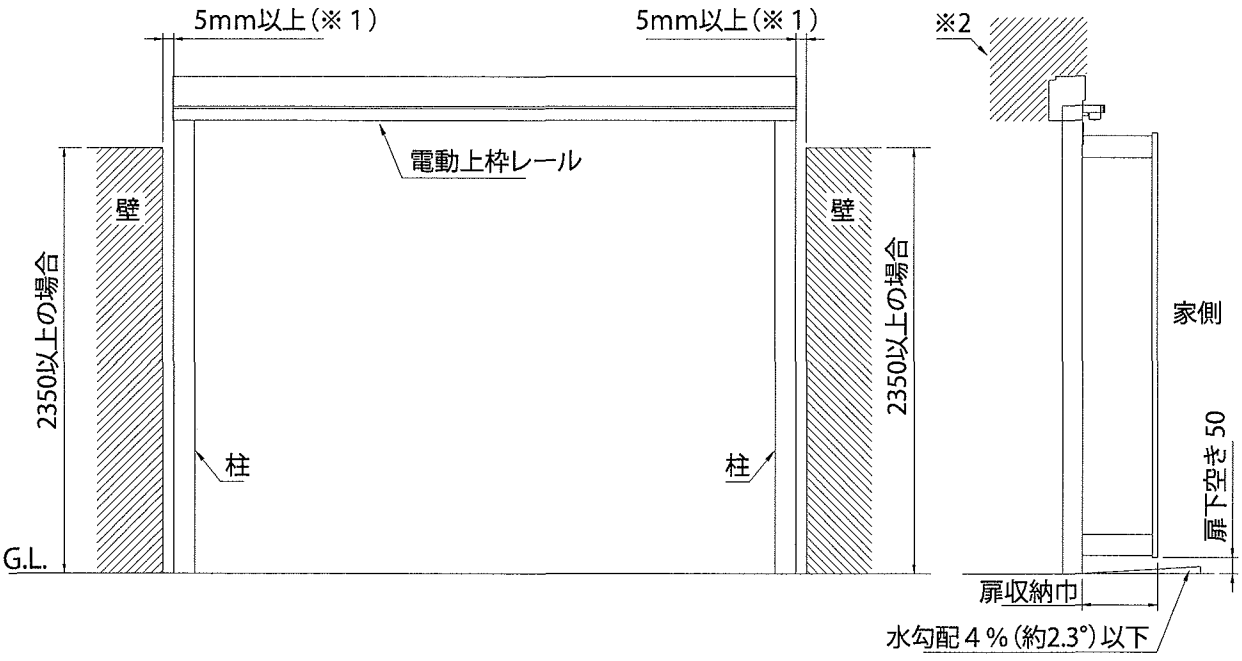
2 取付けの注意

①柱側面へ2350mm以上の壁等を設置する場合には、メンテナンスの弊害になるため必ず5mm(※1)以上のクリアランスを確保してください。

②電動上枠レール、点検カバーの前面および上面は、メンテナンスの弊害になるため必ず障害物がなく、開閉、着脱か可能であることを確認してください。(※2)

組立施工前に、右図の寸法をあらかじめ考慮して組立施工を行なってください。



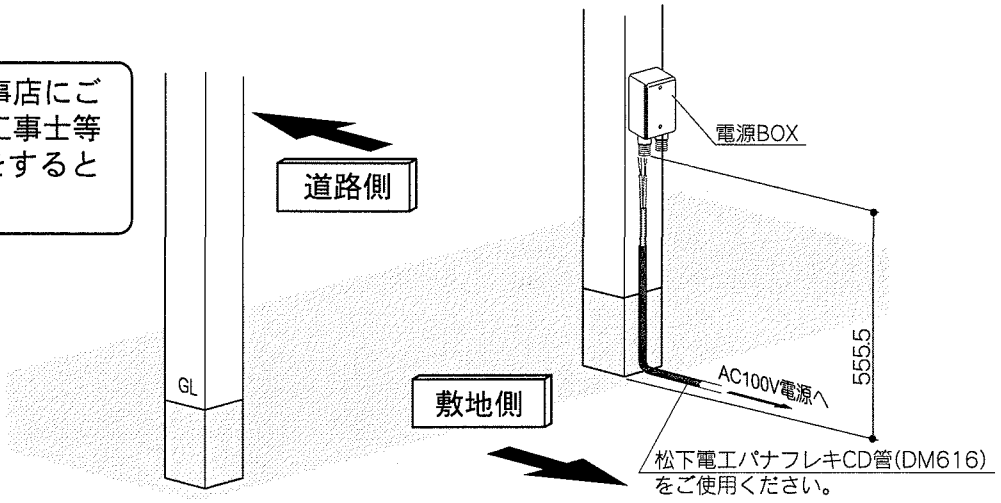


3 電源用CD管の埋設

1. 電源用CD管の埋設をしてください。

※本図は外観右勝手(R)の内観図を示します。外観左勝手(L)の場合は左右対称となります。

電気工事は、電気工事店にご依頼ください。電気工事士等の免許がなく工事をすると違法となります。



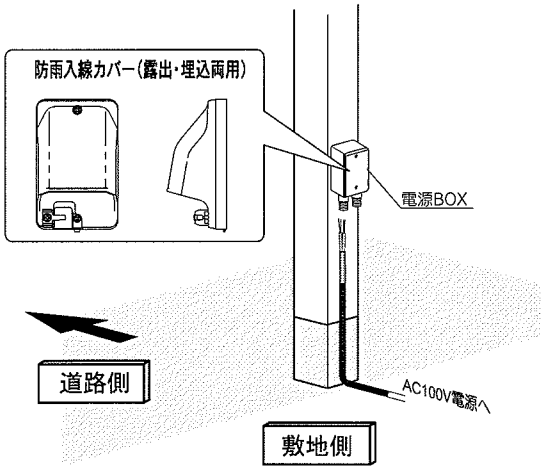
■ 光電センサー用CD管の埋設(特注仕様)

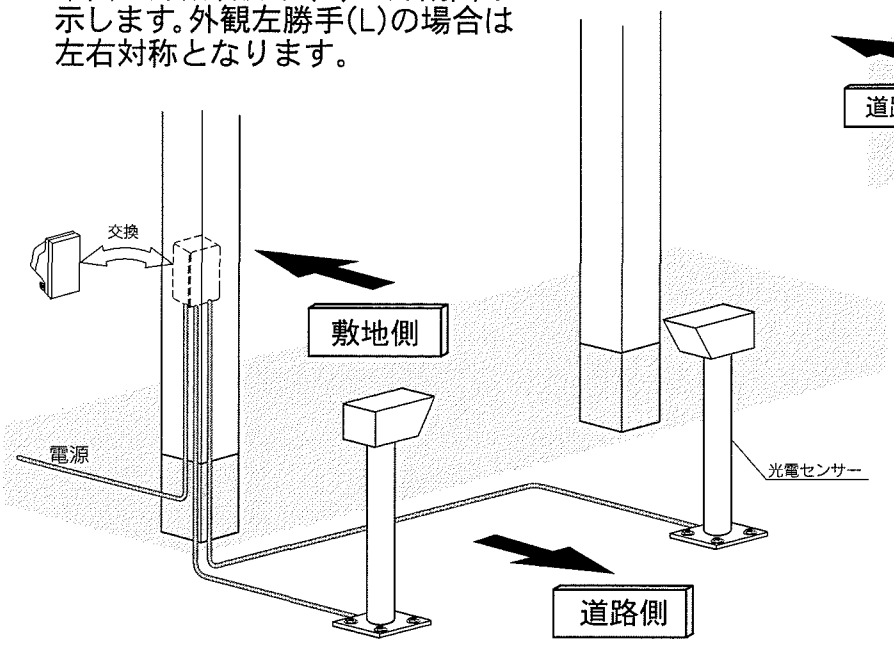
光電センサーを取り付けの場合は、光電センサー用のCD管を取り付けて埋設してください。

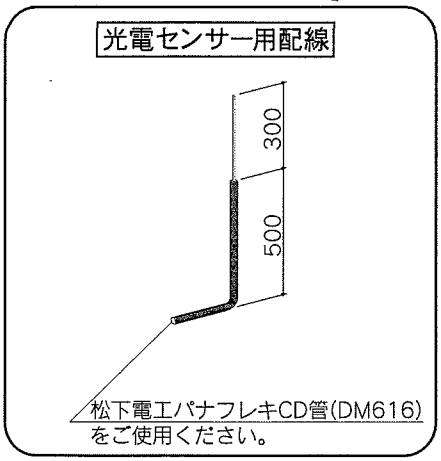
光電センサー取り付け位置について現場納まりを考慮の上、道路側に取り付けてください。

光電センサーを御使用の場合は電源BOXの蓋と防雨入線カバーを取り替えてください。防雨入線カバーから光電センサー用の配線を行ってください。

※本図は外観右勝手(R)の外観図を示します。外観左勝手(L)の場合は左右対称となります。



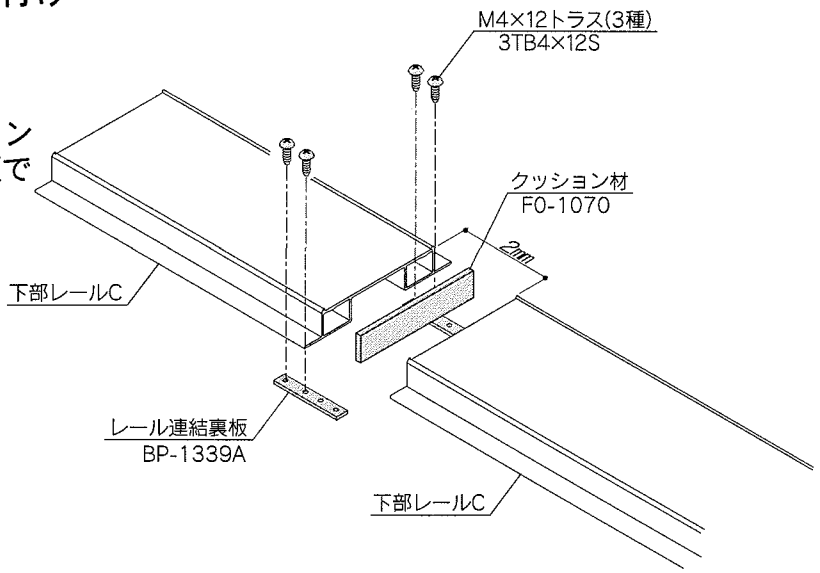




4 ガイドレールの柱への取付け

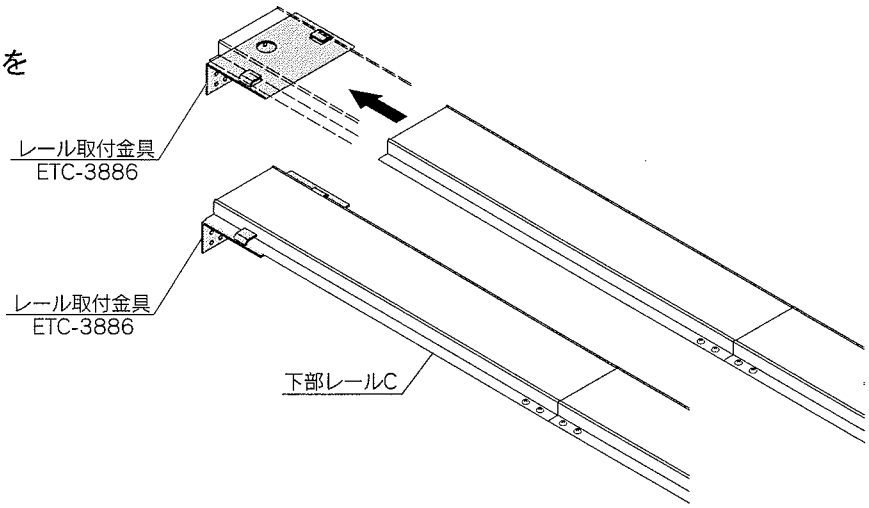
下部レールCの連結

1. 下部レールCの小口にクッション材をはさみ、レール連結裏板でビス止めしてください。



レール取付金具の取付け

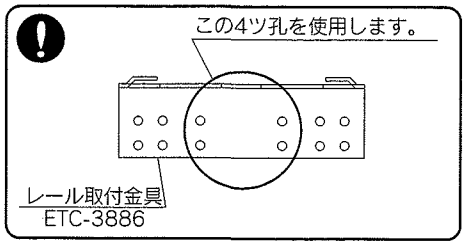
2. レール取付金具に下部レールをスライドさせて取付けてください。

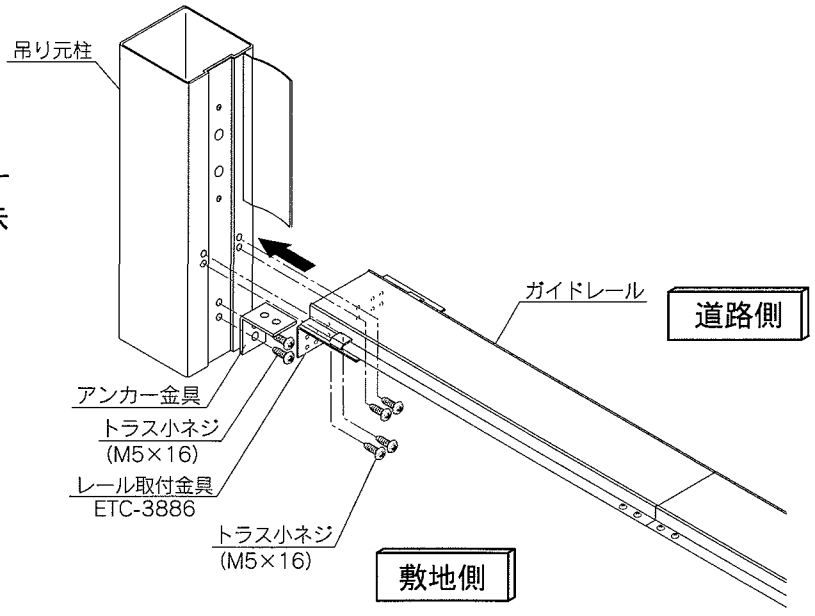


柱への取付け

3. レール取付金具を柱に取付けてください。

※ レール取付け金具を柱にビス止めする際に、使用するビス孔は下図に示す真中4ツ孔を使用してください。



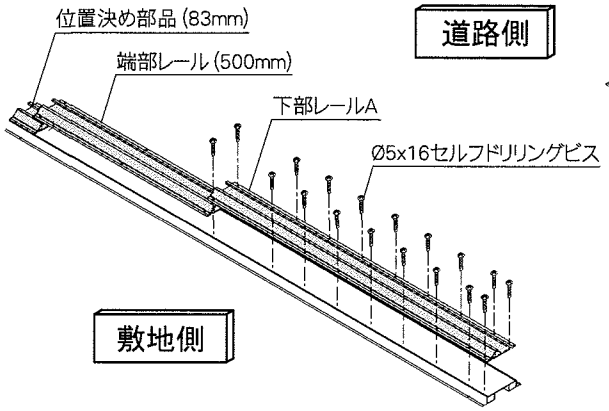


下部レールの取付け

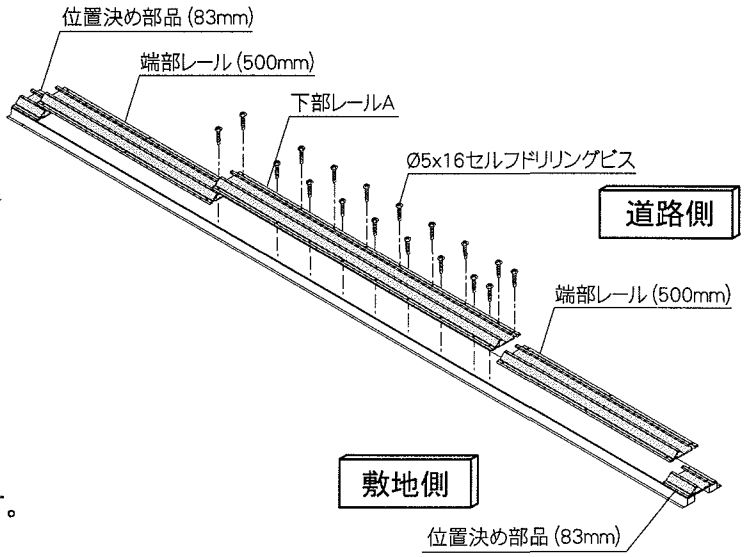
4. 下図を参照して「位置決め部品(83mm)」「端部レール(500mm)」を仮置きし、下部レールAをビス止めしてください。
(端部レールは扉吊り込み後にビス固定します。また、位置決め部品は下部レールAを取付けた後、取り外してください。)

扉吊り込み時に、端部レール(500mm)が扉下部ガイドローラーに緩衝して、扉を吊り込められなくなる為、端部レール(500mm)は扉吊り込み後、取付けてください。

片開き



両開き



※本図は外観右勝手(R)の内観図を示します。

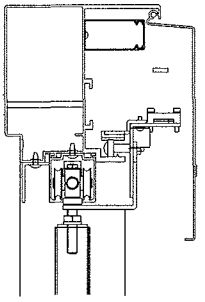
下部レールはビスでしっかりと取付けてください。

5 門柱・電動上枠レール・下部レールの組立

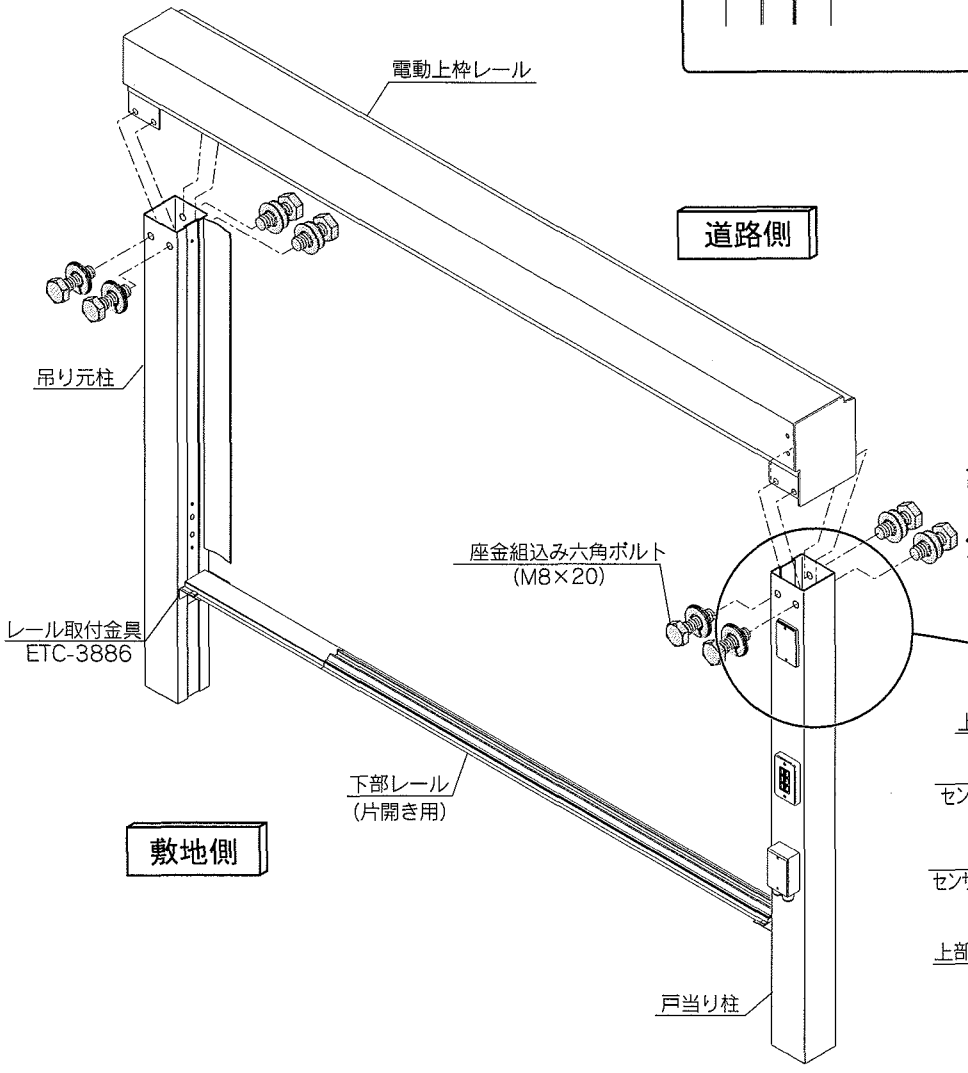
※本図は外観右勝手(R)の内観図を示します。
外観左勝手(L)の場合は左右対称となります。

片開き

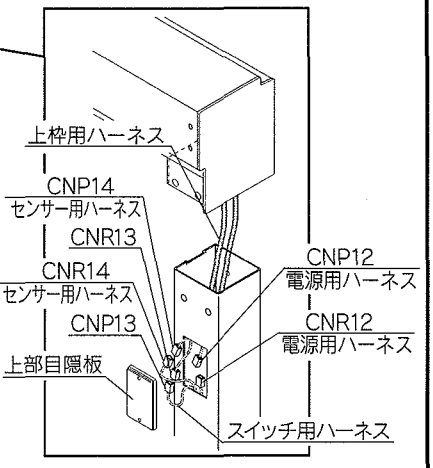
1. 各門柱の勝手を確認し電動上枠レール、下部レールを所定のボルト・ビスで固定してください。
2. 門柱・電動上枠レール・下部レールにねじれが出ない様に建て、倒れない様　木等で仮止めしてください。又、対角・水平・垂直を確認してください。



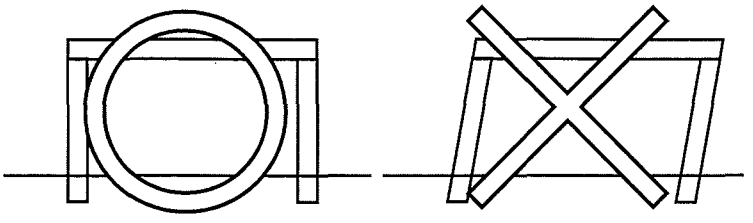
ボルト・ビスの取付けの際、 アルミ形材の切断面で手、指等にケガをしないようご注意ください。又、ボルトはスパナ等で確実に固定してください。



詳しい接続方法は、P13“■上枠用ハーネスとスイッチ用・電源用ハーネスの接続”を参照してください。



柱の対角・水平・垂直を確認してください。

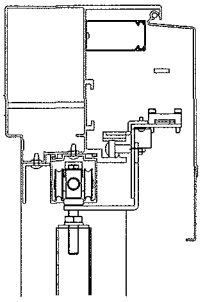


5 門柱・電動上枠レール・下部レールの組立

※本図は外観右勝手(R)の内観図を示します。
外観左勝手(L)の場合は左右対称となります。

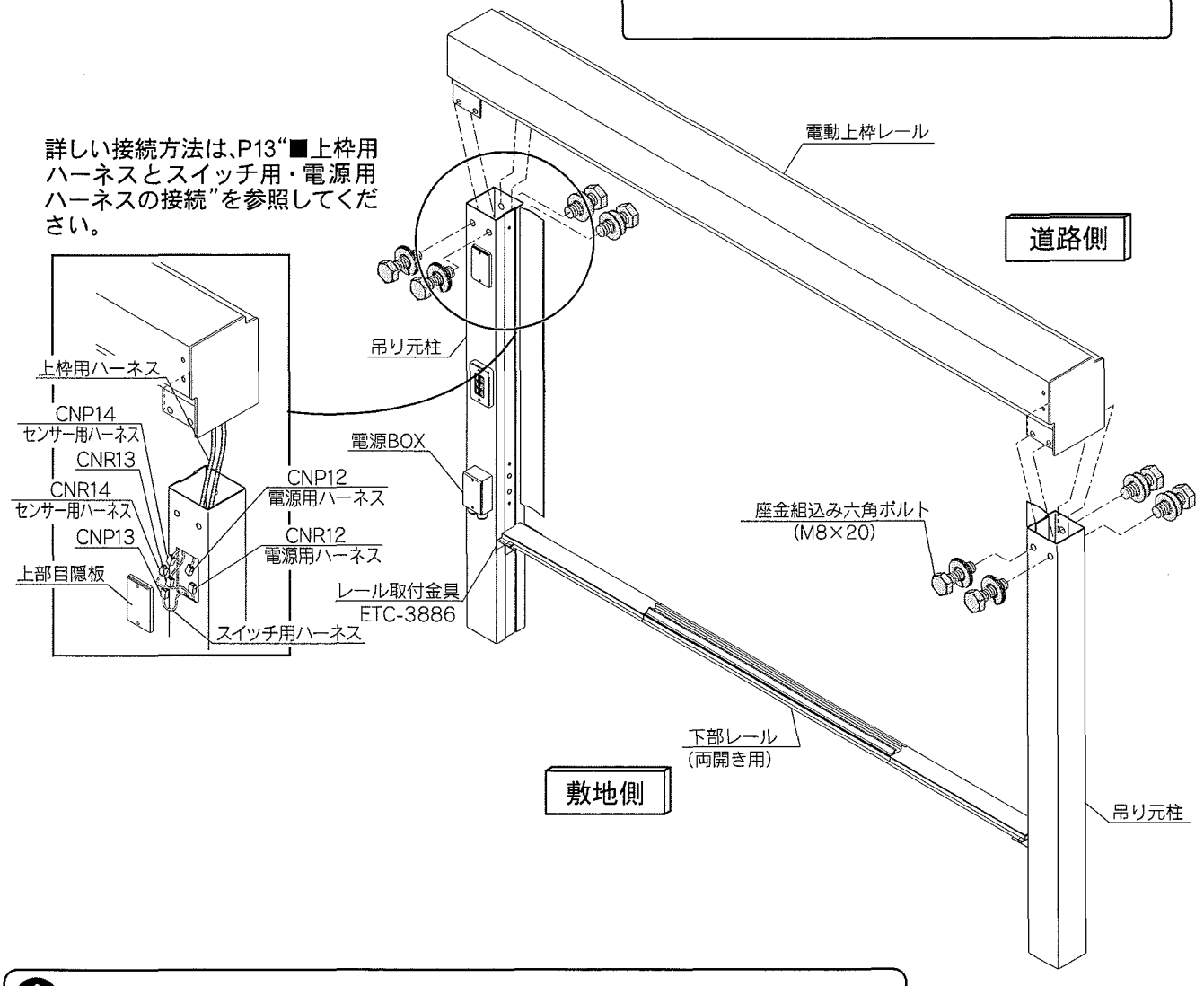
両開き

1. 各門柱の勝手を確認し上枠レール、を所定のボルト・ビスで固定してください。
2. 門柱・上枠レールにねじれが出ない様に建て、倒れない様木等で仮止めしてください。又、対角・水平・垂直を確認してください。

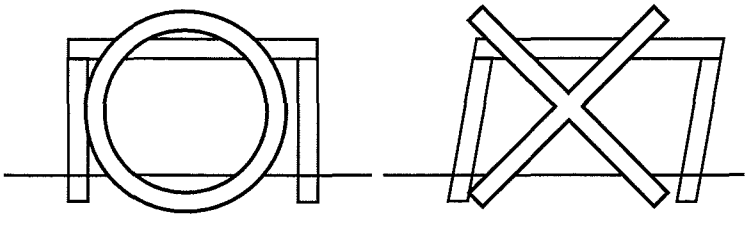


ボルト・ビスの取付けの際、 アルミ形材の切断面で手、指等にケガをしないようご注意ください。又、ボルトはスパナ等で確実に固定してください。

詳しい接続方法は、P13"■上枠用ハーネスとスイッチ用・電源用ハーネスの接続"を参照してください。

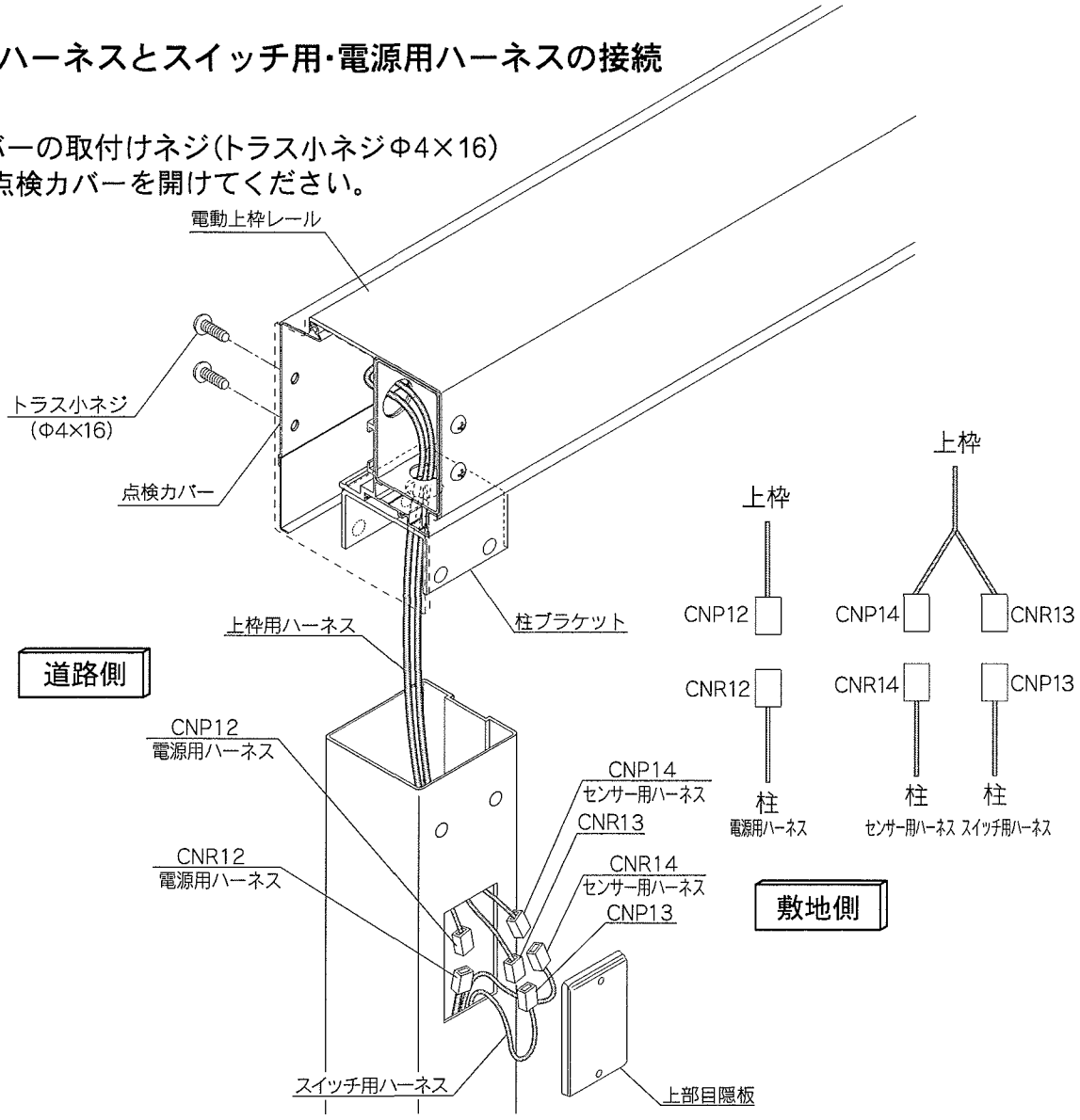


柱の対角・水平・垂直を確認してください。



6 上枠用ハーネスとスイッチ用･電源用ハーネスの接続

1. 点検カバーの取付けネジ(トラス小ネジΦ4×16)
   を外し、点検カバーを開けてください。



2. 柱の上部にセットしてあるスイッチ用ハーネスのCNP13、CNR14と電源用ハーネスのCNR12を出してください。
3. 上枠レール内にある上枠用ハーネスのコネクターCNR13、CNP14と電源用ハーネスのCNP12を柱を通して上部目隠板の切り欠き穴から出します。
4. (CNP12とCNR12 / CNP13とCNR13 / CNP14とCNR14)の向きを合わせてそれぞれ接続してください。

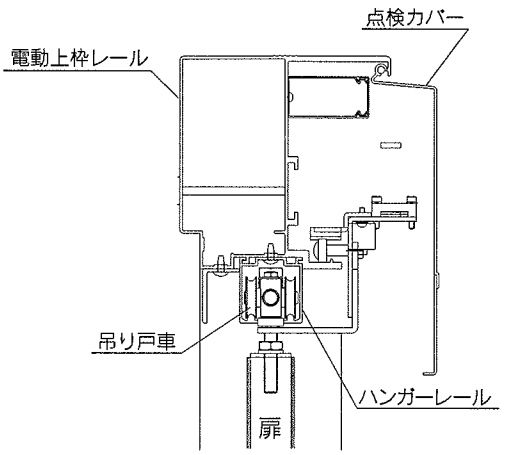
   (コネクターは奥までしっかりと差し込んでください。ゆるいと接触不良となり、動作しなくなることがあります。)
5. 接続部分を柱の中に入れて上部目隠板を確実に取り付けてください。(目隠板からハーネスがはみ出したり、目隠板ではさんだりしないように注意してください。また、目隠板の取付けビスがゆるんでいたりすると雨水などが入ってしまうことがありますので、十分に注意して取付けてください。)

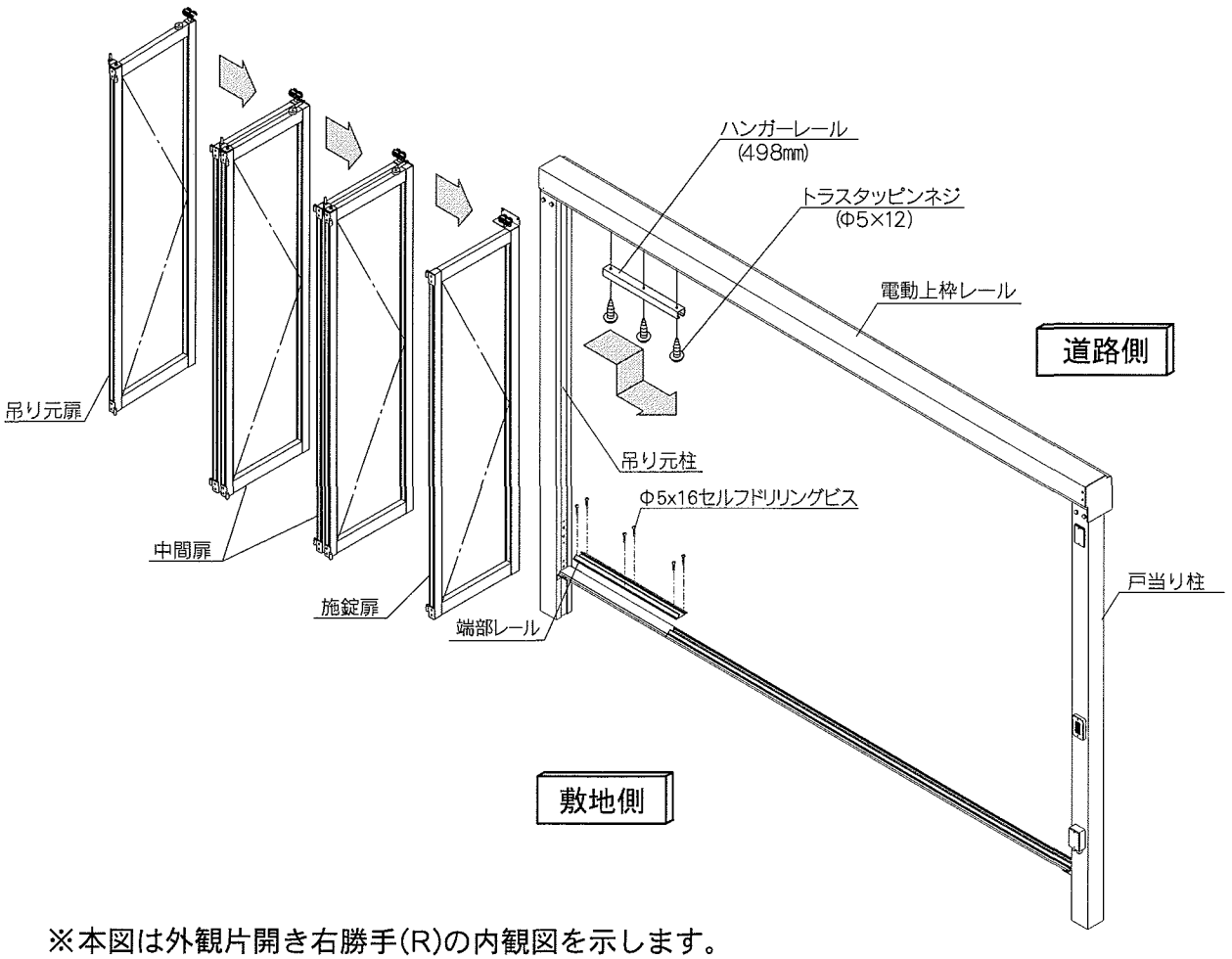
> ハーネスが上枠と柱の間に挟まれないように注意してください。
> (断線やショートすることがあります。)
> 上枠用ハーネス・スイッチ用ハーネスは無理に引っ張らないようにしてください。
> (断線することがあります。)

7 扉の吊り込み

片開き

1. 吊り元柱側の上枠レール内に組込んであるハンガーレール(498㎜)を取り外してください。
2. 施錠扉から順次吊り戸車を差し込み、戸当り柱側へ移動させてください。
3. すべての扉を差し込んだ後、ハンガーレール(498㎜)を所定のビスで固定し直してください。
4. ハンガーレールを固定した後、下部、端部レール(500㎜)を所定のビスで固定してください。



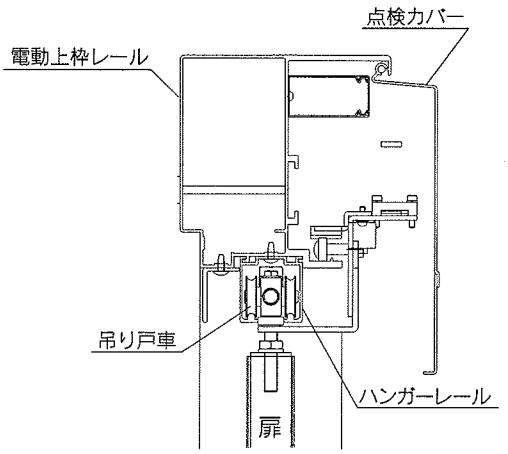


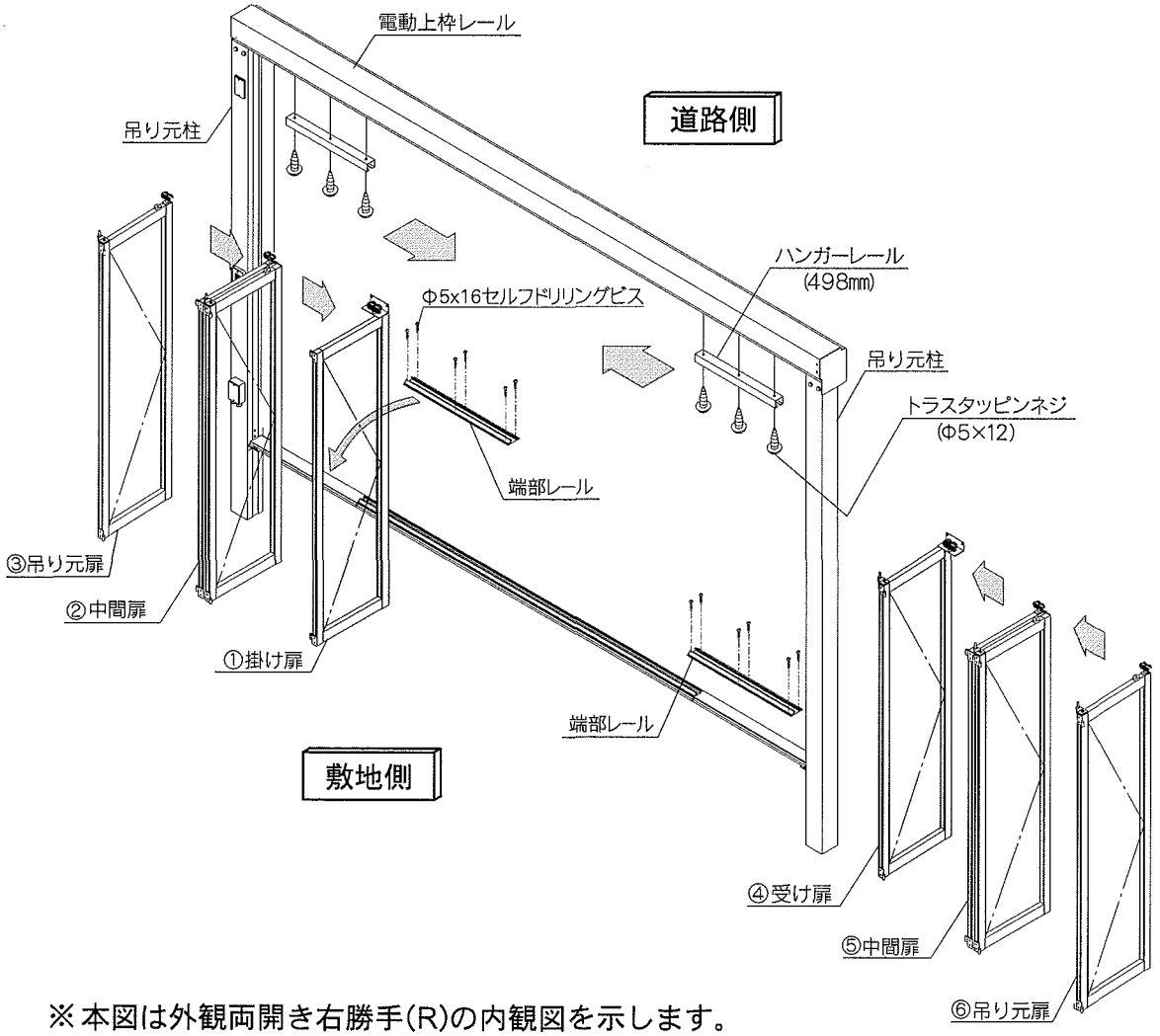
※本図は外観片開き右勝手(R)の内観図を示します。

7 扉の吊り込み

両開き

1. 上枠レール内に組込んであるハンガーレール(498㎜)を取り外してください。
2. 掛け扉から①～⑥の順に吊り戸車を差し込み､中央へ移動させてください。
3. すべての扉を差し込んだ後、ハンガーレール(498㎜)を所定のビスで固定し直してください。
4. ハンガーレールを固定した後､下部､端部レール(500㎜)を所定のビスで固定してください。

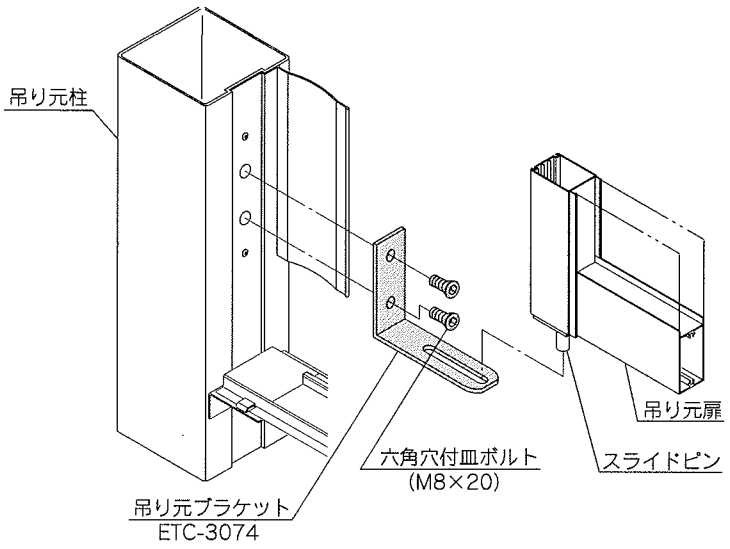




※本図は外観両開き右勝手(R)の内観図を示します。

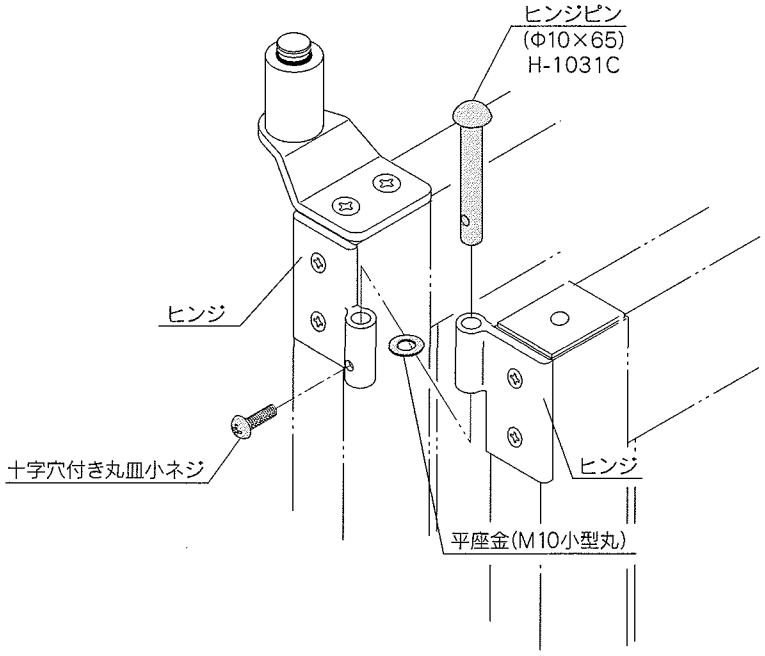
8 吊り元ブラケットの取付け

1. 吊り元ブラケットに吊り元縦框の下部に付いているスライドピンを通し、吊り元ブラケットを六角穴付皿ボルトで固定してください。
   ※付属の六角レンチで確実に固定してください。



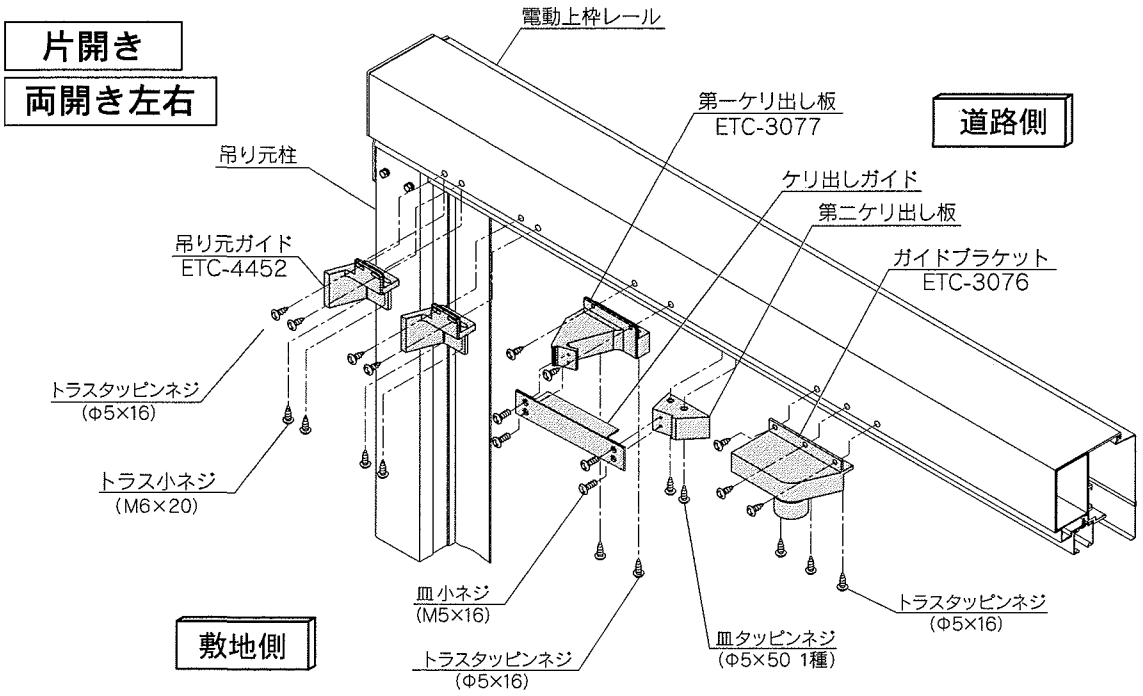
9 扉の連結

1. ヒンジにヒンジピン及び平座金を通し所定の十字穴付き丸皿小ネジで固定してください。

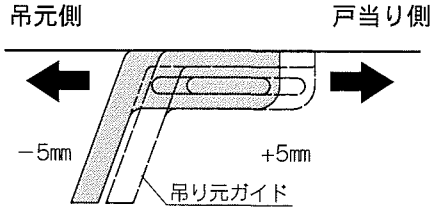


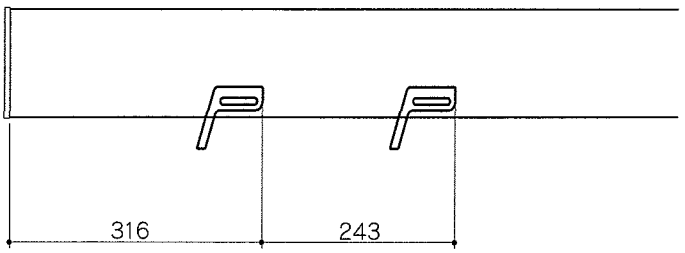
11 吊り元ガイドの取り付け

1. 扉を閉じた状態にした後、下図を参考に各ガイドを所定のビスで取り付けてください。



取付けの際、吊元ガイドの向きに注意して取付けてください。
扉を数回開閉して吊り元ガイドの位置を調整してください。

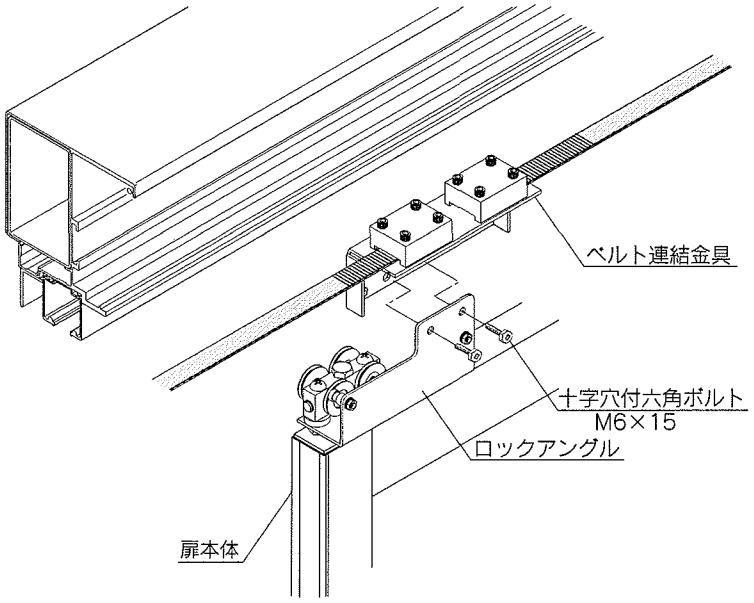


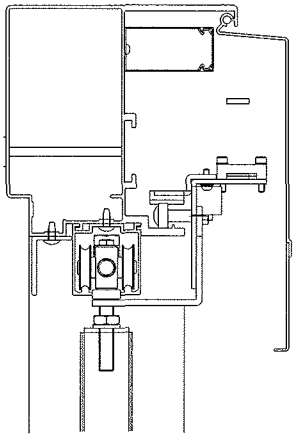


11 扉本体とベルトの連結

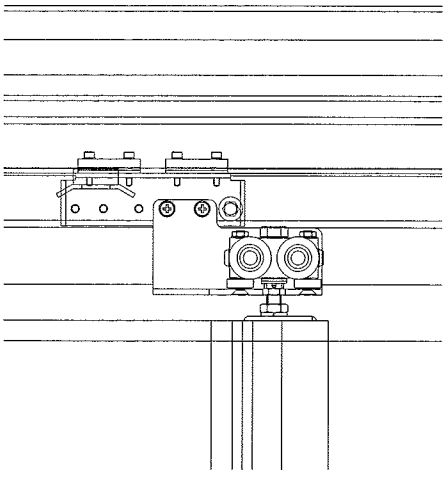
1) 下図を参考に、扉本体にロックアングル及び上枠レール内のベルト連結金具を所定の取付ボルトで固定してください。
2) ロックアングルとベルト連結金具を取付後、図のように上枠レール内に所定の位置にセットされているか確認してください。

片開き　※本図は外観片開き右勝手(R)を示します。
外観片開き左勝手(L)の場合は左右対称となります。

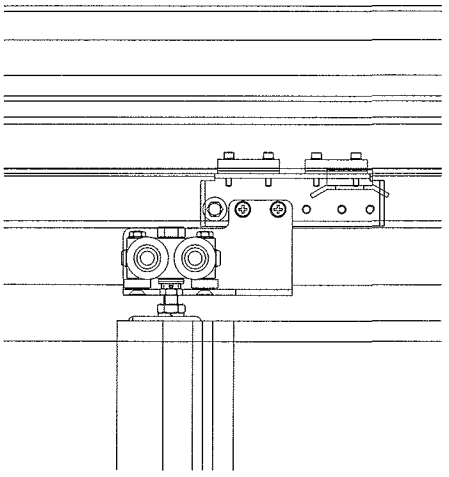




外観片開き左勝手(L)の場合



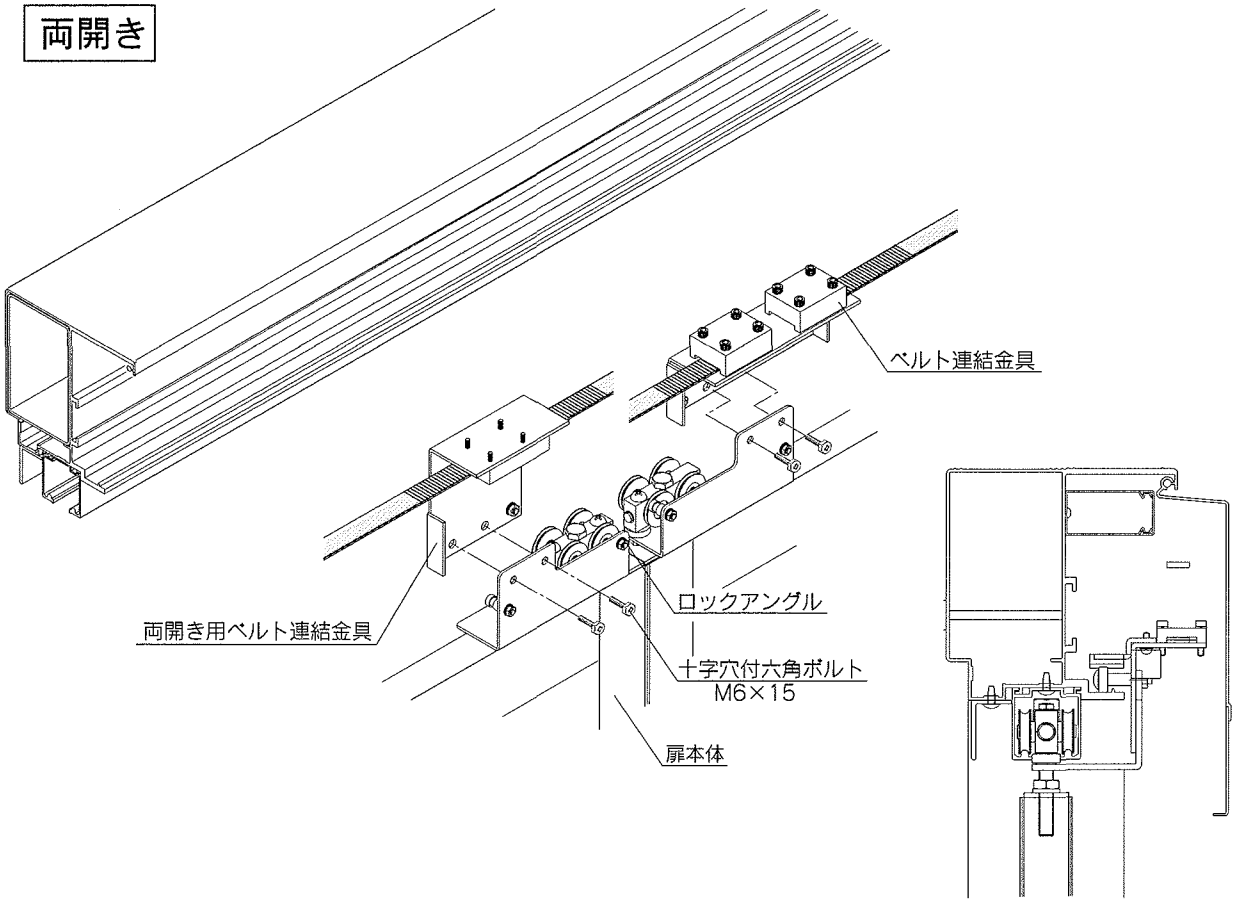
外観片開き右勝手(R)の場合



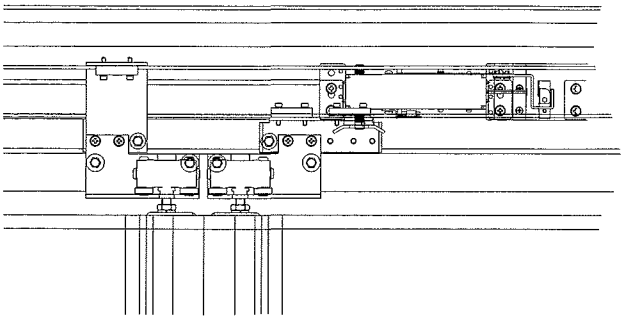
11 扉本体とベルトの連結

1) 下図を参考に、扉本体にロックアングル及び上枠レール内のベルト連結金具を所定の取付ボルトで固定してください。
2) ロックアングルとベルト連結金具を取付後、図のように上枠レール内に所定の位置にセットされているか確認してください。

両開き



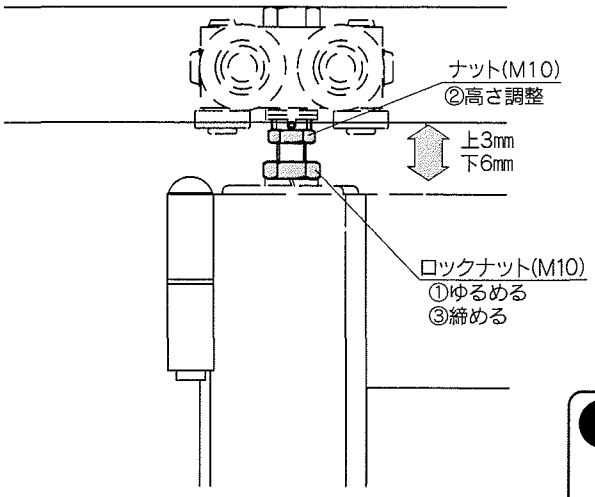
外観両開き右勝手(R)の場合



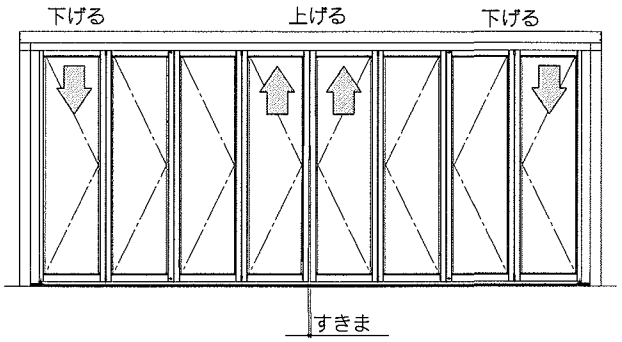
12 吊り戸車の高さ調整

1. 吊り戸車の高さを調整し、召し合わせ部の上下に隙間が出ない様にしてください。

   調整方法は、下図の番号順に従って調整してください。



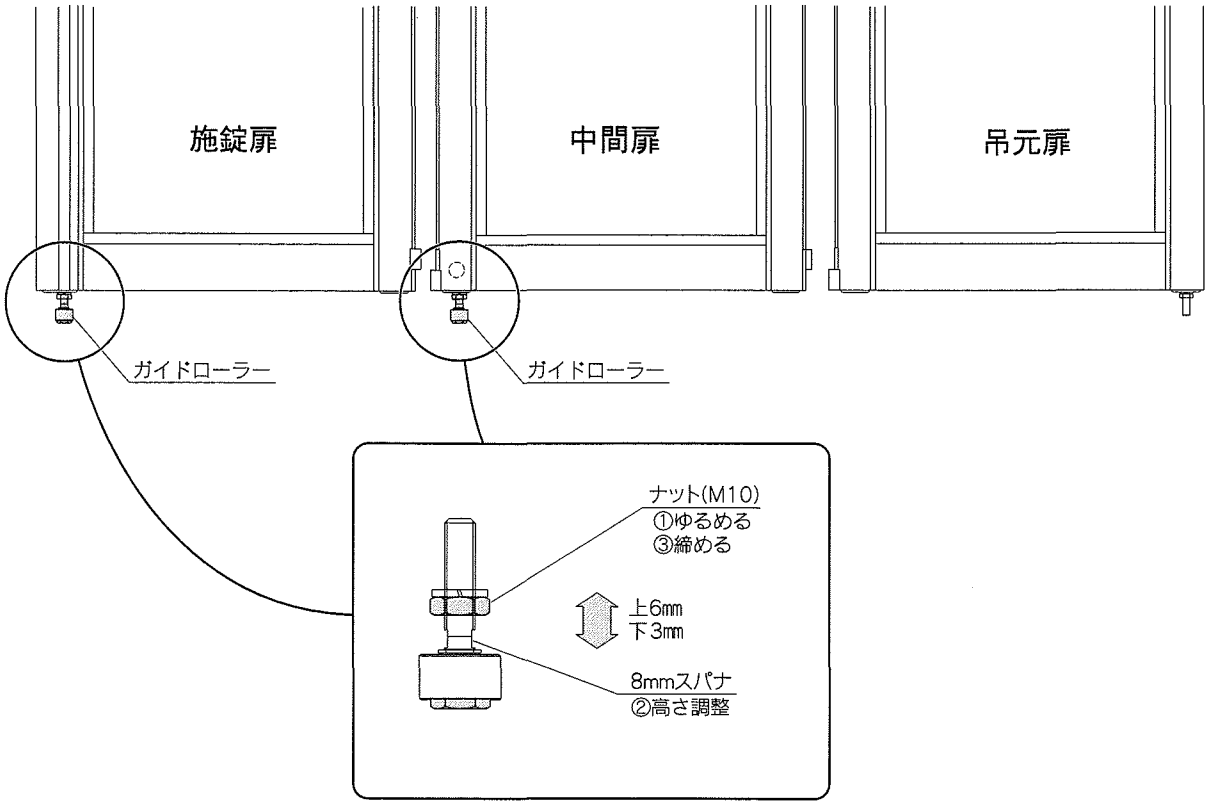
扉の召し合わせ部で隙間が生じた場合は、高さ調整を行ってください。



吊り戸車調整後、必ずロックナット(M10)を増し締めしてください。
ロックナット(M10)が緩んでいると、扉の高さ位置が下がって、開閉できなくなる可能性があります。

13 ガイドローラーの調整

1. ガイドローラーを下部レールにあたらない様に調整してください。



14 電源の接続

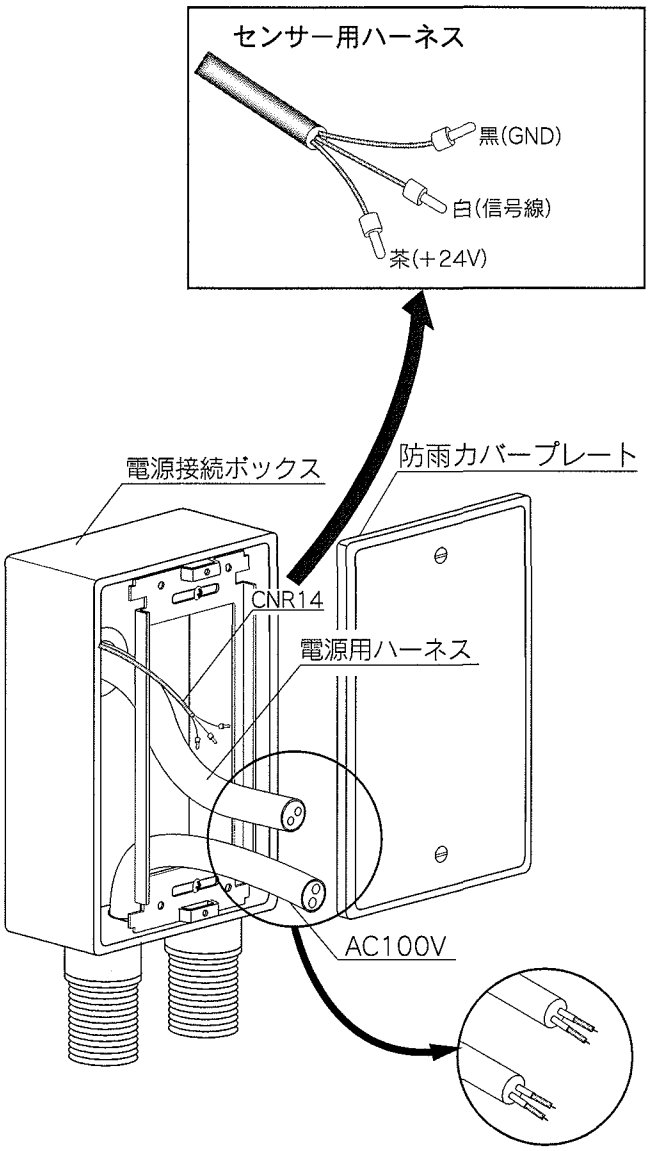
1. 下図を参考に、次の手順で電源の接続をしてください。

① 戸当り柱下部にある電源接続ボックスの防滴カバープレートを開けて、電源用ハーネスを取り出してください。(電源用ハーネスは無理に引っ張らないようにしてください。)

② 電源接続ボックスの下部の穴からAC100Vのケーブルを通してください。

③ 電源用ハーネスとAC100Vのケーブルとを接続します。(電源用ハーネスは未加工ですので電気工事の方が端末処理をしてから接続を行ってください。)

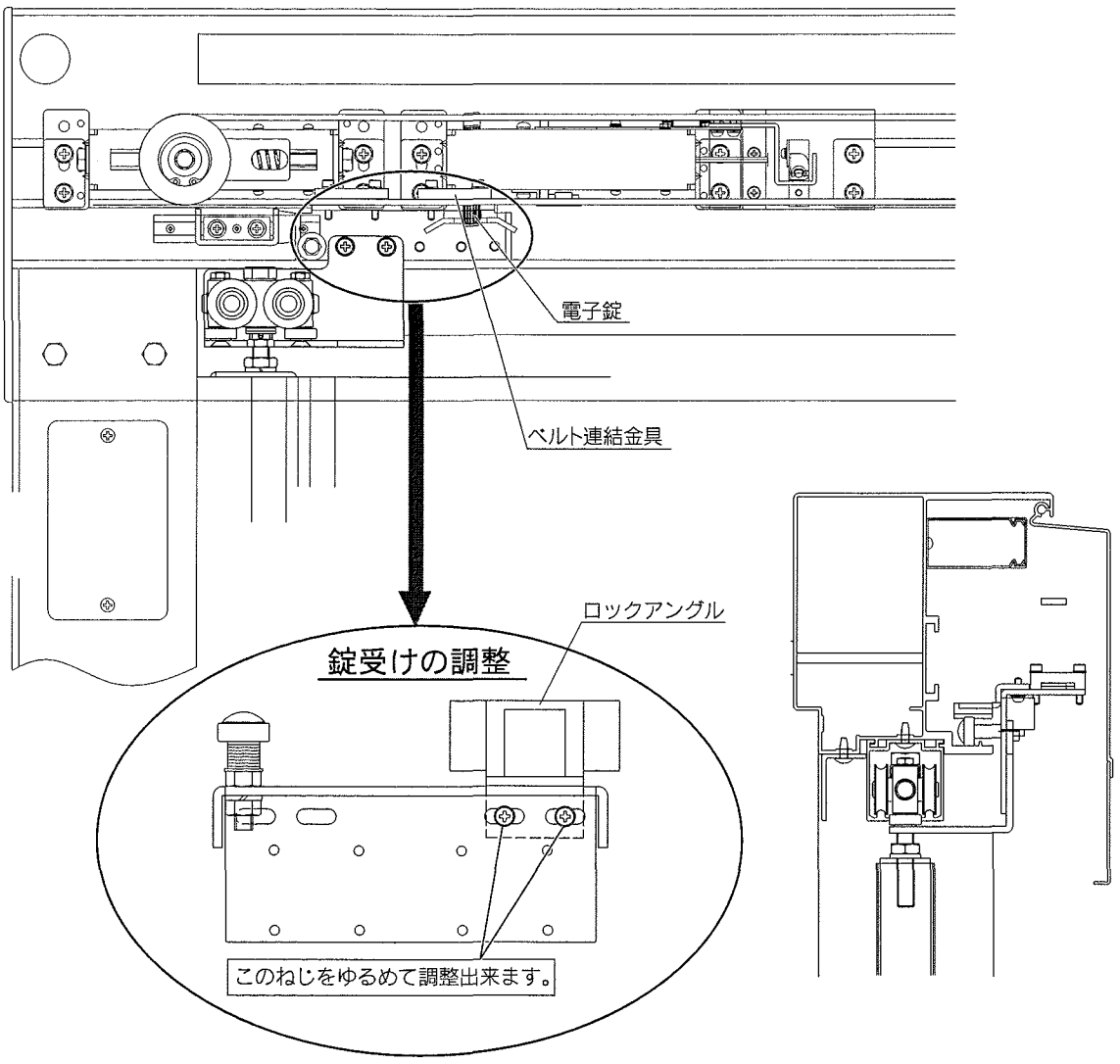
④ 接続部分を電源ボックスの中へ入れてしっかりと防滴カバープレートを閉めてください。



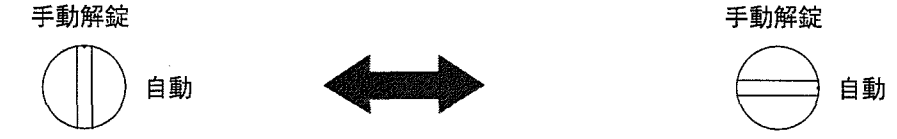
15 扉の手動での作動確認

1. 扉を手動で2､3回開閉してスムーズに動くことを確認してください。（全開⟷全閉を行ってください。また､開閉の際点検カバーにベルト連結金具が当たらないように注意してください。）
2. 錠受けが電気錠に確実にロックする事を点検カバーを開けた状態で確認してください。

※本図は外観右勝手(R)を示します。　外観左勝手(L)の場合は左右対称となります。



3. 錠受けが電気錠にロックした時に解錠つまみで解錠出来ることを確認してください。
（解錠つまみは『手動解錠』の位置で電気錠のロックがはずれます。確認後解錠つまみを必ず『自動』側へ戻してください。）
4. 停電時は､解錠つまみを『手動解錠』の位置にし､手動で動かしてください。通電後は解錠つまみを必ず『自動』側へ戻してください。



『手動解錠』の位置　　『自動』の位置

16 初期動作

ブレーカー投入前に周囲の安全を確認してください。

新設工事で初めてブレーカーを投入する時は、扉の開閉位置及び開閉幅を学習測定します。次の要領で操作してください。

1. ブレーカーをONにしてください。
   以下の連動作を自動で行います。
   電気錠（解錠）→扉移動動作（開方向）→ 開放位置確認→扉移動動作（閉方向）→
   閉鎖位置確認→電気錠（施錠）

   ※扉動作スピード・・・低速
   ※開放、閉鎖位置確認・・・必ず、戸当りクッションゴムに到達していること。

2. 開スイッチを押してください。
   電気錠（解錠）→ 扉移動動作（開方向）→ 開放位置（停止）

   ※扉動作スピード（通常時）・・・高速
   （開放位置手前）・・・低速

3. 閉スイッチを押してください。
   扉移動動作（閉方向）→ 閉鎖位置（停止）→ 電気錠（施錠）

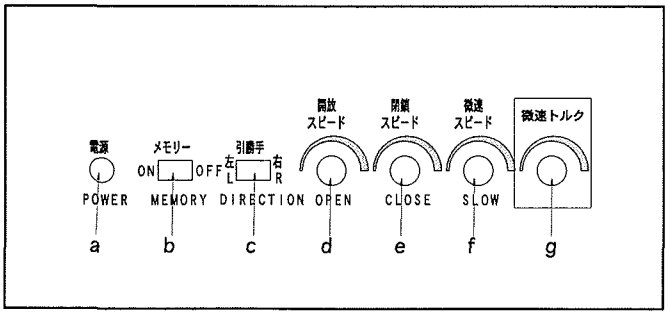
   ※扉動作スピード（通常時）・・・高速
   （閉鎖位置手前）・・・低速

4. 上記の2. 3.項の開閉動作を5往復、繰り返してください。

5. 5往復後、必ず閉鎖位置（停止）→ 電気錠（施錠）を確認してから、モーター制御器のメモリースイッチを付属調整ドライバーで確実にON方向にスライドしてください。

   ※工場出荷時・・・メモリースイッチはOFF

17 制御器ユニットの調整ボリューム・スイッチの説明



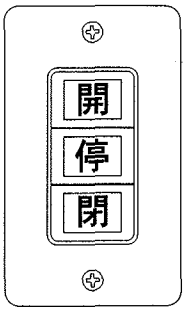
メモリー以外の調整はしないでください。

a 電源ランプ ： 電源がONのとき点灯 動作異常のとき点滅
b メモリースイッチ： メモリーのON−OFF
c 引勝手スイッチ ： 引勝手の選択
d 開放スピードボリューム： 開放スピードの調整（右回転：速 左回転：遅）
e 閉鎖スピードボリューム： 閉鎖スピードの調整（右回転：速 左回転：遅）
f 微速スピードボリューム： 開き際、戸締り際スピードの調整（右回転：速 左回転：遅）
g 微速トルクボリューム ： 開き際、戸締り際トルクの調整（右回転：大 左回転：小）

18 動作確認

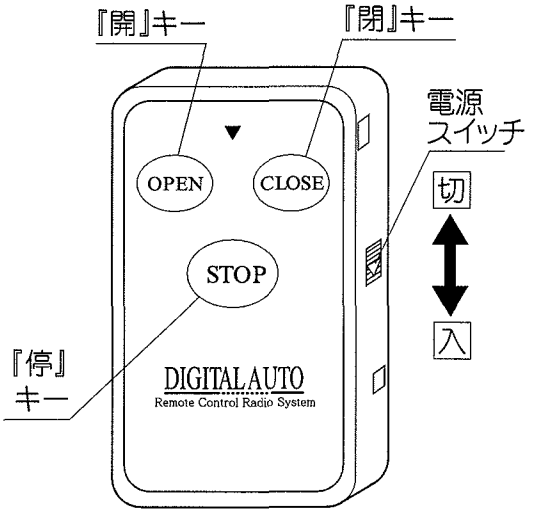
1. 敷地内スイッチによる確認

①「開」キーを押すと扉は開放方向に移動して、全開して停止します。
②「閉」キーを押すと扉は閉鎖方向に移動して、全閉して停止します。
③ 扉が開放方向または閉鎖方向に移動中の時「停」キーを押すと、扉はその位置で停止します。
再び「開」または「閉」キーを押すと「開」キーの時は開放方向に、「閉」キーの時は、閉鎖方向にそれぞれ扉が移動します。
④ 開放及び閉鎖動作中に逆方向に動かしたい場合は、必ず停止ボタンを押してからでないと切換りません。ご注意ください。



2. リモコンによる確認

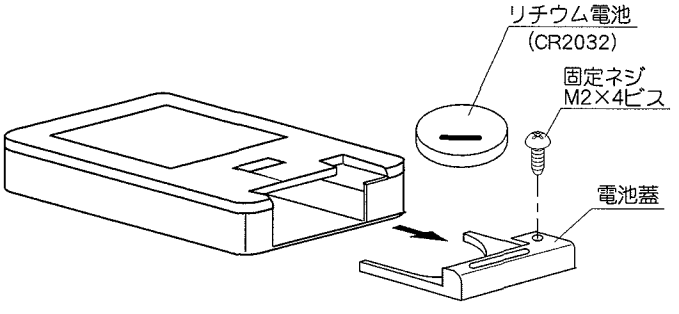
① 電源スイッチを▽方向にスライドしてください。
操作キーは、確認して軽く1～2秒押してください。
②「開」キーを押すと扉は開放方向に移動して、全開して停止します。
③「閉」キーを押すと扉は閉鎖方向に移動して、全閉して停止します。
④ 扉が開放方向または閉鎖方向に移動中の時「停」キーを押すと、扉はその位置で停止します。
再び「開」または「閉」キーを押すと「開」キーの時は開放方向に、「閉」キーの時は、閉鎖方向にそれぞれ扉が移動します。
⑤ 開放及び閉鎖動作中に逆方向に動かしたい場合は、必ず停止ボタンを押してからでないと切換りません。ご注意ください。



周囲の安全を確認した上、必ず扉が見える位置で操作してください。

誤操作防止のため使用時以外は必ずスイッチをOFFにしてください。

両開きの場合は、追加リモコンのコード登録を行ってください。（付属のマニュアルME-2118をご参照ください。）



19 扉が動かないとき

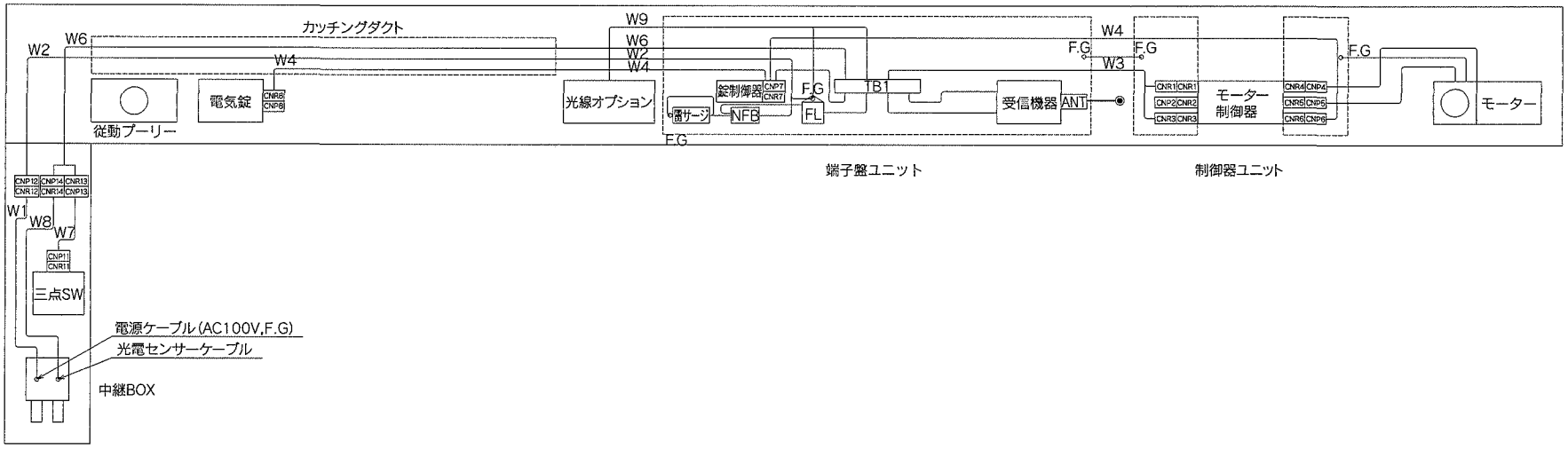
扉が動かないときは、下記のような点が考えられますので再度確認してください。再度確認しても動かないときは、最寄りの営業所へご連絡ください。

状　況	確認事項	原　因	対　処
敷地内スイッチで開・停・閉を押しても動作しない。	1. 敷地内スイッチ・リモコンを操作しても扉が動かない。	1. 漏電ブレーカーが落ちている。 2. 上枠用ハーネスのコネクターとスイッチ用ハーネスのコネクターが抜けている。 3. モーターの制御器のヒューズが切れている。	1. 漏電ブレーカーをONにする。 2. コネクターを奥までしっかり差し込みます。 3. 新しいヒューズと交換します。 名称：ミゼットヒューズ サイズ：5.2×20 定格電圧：125V 定格電流：5A 定格遮断電流：300A 溶断特性：B
	1. 制御器の赤いLEDが点滅しているか。	1. ベルトが外れていないか・ゆるんでいないか。 2. ベルトの歯が欠けている。	1. ベルトを掛け直します。 2. ベルトの調整。 再度電源を入れなおす。
リモコンで開・閉・停を操作しても扉が動かない。	1. スクリーンゲートに近づいてリモコンを操作しても扉が動かない。 2. スクリーンゲートに近づいてリモコンを操作すると扉は動く。 3. リモコンLEDがボタンを押した時に暗くなっているか消えている。 4. 敷地内スイッチ・リモコンを操作しても扉が動かない。	1. アンテナが接続されていない。 2. スクリーンゲートまでの距離が遠すぎる。 3. 電池が消耗している。リモコンの電源がOFFになっている。 4. ヒューズが切れている。漏電ブレーカーが落ちている。	1. アンテナを接続します。 2. 電波が届く所まで近づきます。 3. 新しい電池と交換します。リモコンの電源をONにします。 4. 新しいヒューズと交換します。漏電ブレーカーをONにします。
扉が閉じても電気錠が施錠しない。	1. 解錠つまみの位置を確認します。 電子錠が錠受けにロックしているか確認します。 錠受けの調整はP22を参照してください。	1. 解錠つまみが「手動解錠」になっている。	1. 解錠つまみを「自動」に戻します。
停電時に扉が手で開けられない。	1. 解錠つまみの位置を確認します。	1. 解錠つまみが「自動」になっている。	1. 解錠つまみを「手動解錠」に戻します。 停電が復旧したら必ず解錠つまみを「自動」に戻してください。
扉が移動中に途中で止まってしまう。	1. 下枠レール周辺を確認します。 レール端部金具の調整が出来ているか確認します。 レール端部金具の調整はP21を参照してください。	1. 下枠レールに障害物がある。	1. 下枠レールの障害物を取り除きます。

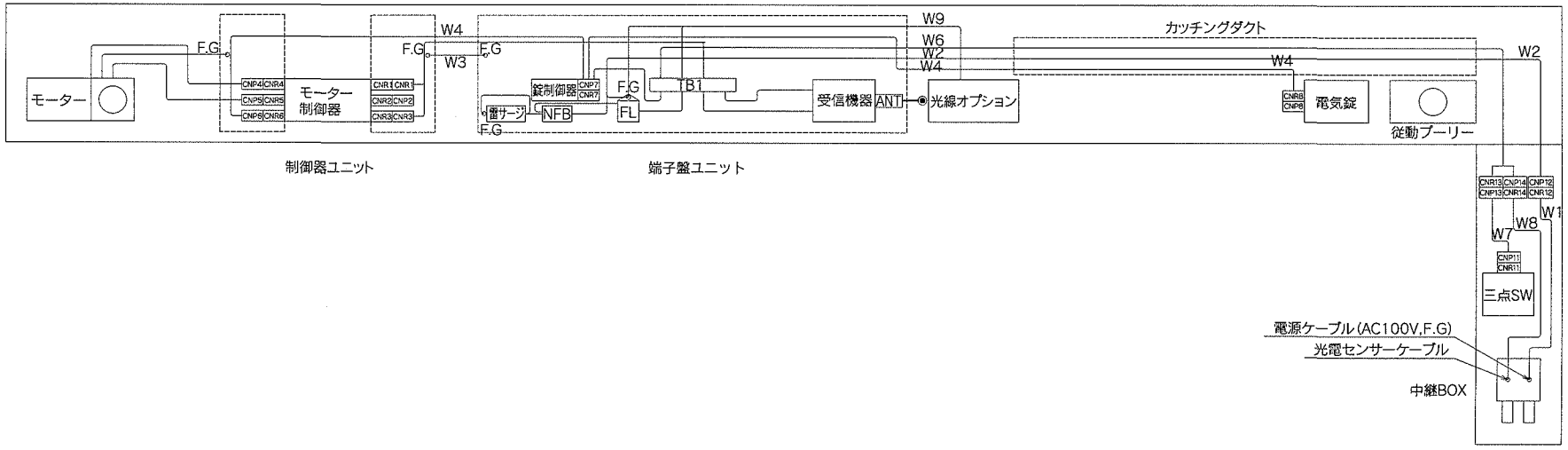
※漏電ブレーカーが落ちていたり、ヒューズが切れていた場合は、なにかしらのトラブルが考えられますので、最寄りの営業所へご連絡ください。

■ 片開き用

片引き(右)操作(左門柱)

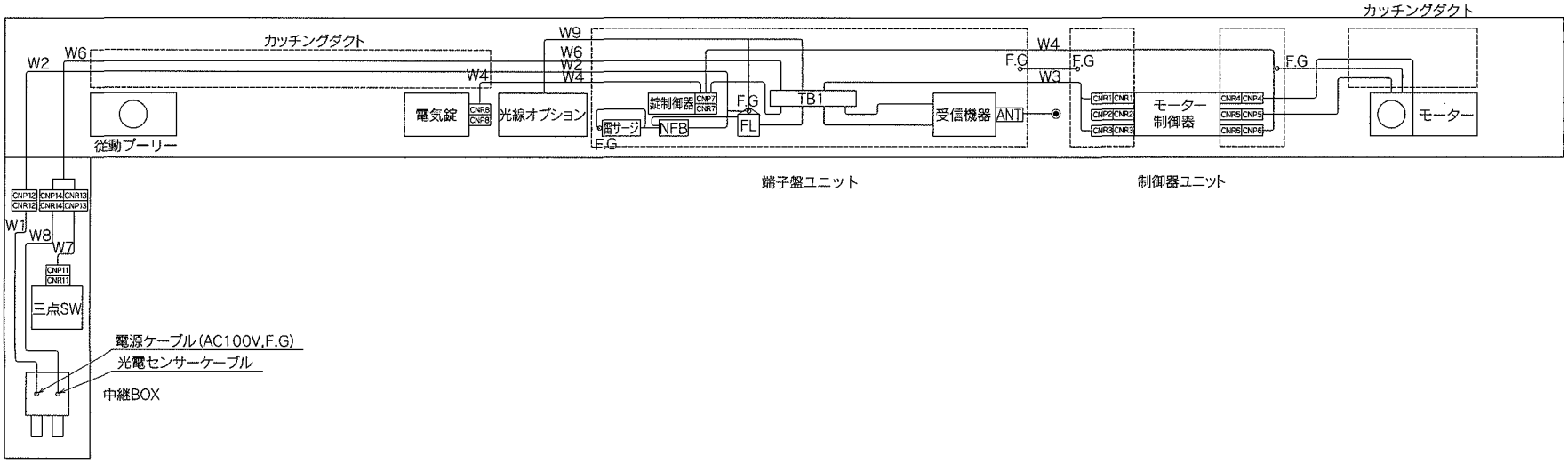


片引き(左) 操作(右門柱)

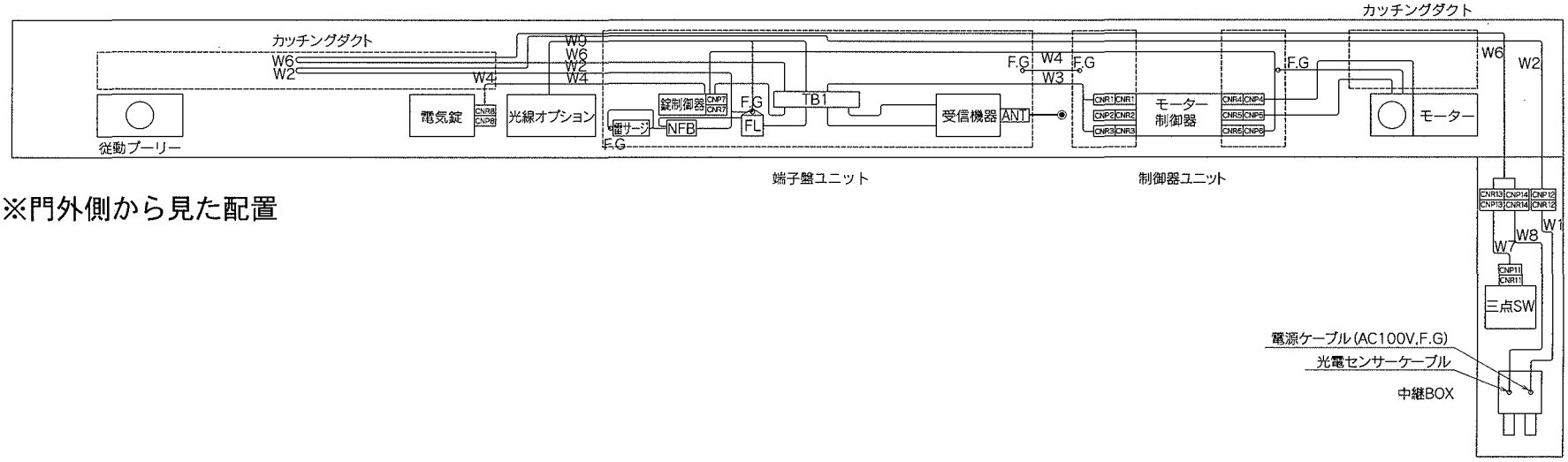


■ 両開き用

両引き　操作(左門柱)



両引き　操作(右門柱)



※門外側から見た配置

21 仕様

仕様

開閉速度		高速時 約18Cm/秒　低速時 約11Cm/秒
電源		AC100V　±10%　50/60Hz
消費電力	作動時	200W以下
	停止時	25W以下
絶縁抵抗		DC500V 10MΩ以上
駆動方式		55W DCブラシレスモーター 歯付ベルト駆動

22 おわりに

1. 以上で取り付けは完了ですが、お客様に正しく取り扱っていただく為に施工完了後に、作動、錠の掛かり具合等を確認後、使用方法・使用上の注意等をお客様に説明し、この組立施工マニュアルをお渡しください。